

## ケアマネジャー・サービス提供事業所アンケート調査 結果概要

### I 調査概要

#### (1) 調査目的

本調査は、「第9期守山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定に向けて、ケアマネジャーやサービス提供事業所を対象に、サービスの利用状況や関係機関等との連携状況に関する課題や問題点、高齢者施策への意見・要望等を把握する目的で実施しました。

#### (2) 調査概要

	ケアマネジャーアンケート調査	サービス提供事業所アンケート調査
調査対象者	市内の居宅介護支援事業所に所属しているケアマネジャー	市内の介護保険サービス提供事業所
調査対象者数	81名	市内事業所 計119事業所
調査期間	令和5年1月～2月	令和5年1月～2月
調査方法	郵送配布・郵送回収による郵送調査方法 調査票に二次元コードを記載し、WEBでの回答も可能な状態で実施	郵送配布・郵送回収による郵送調査方法 調査票に二次元コードを記載し、WEBでの回答も可能な状態で実施

#### (3) 有効回答件数及び回答率※（ ）内は前回調査時

	ケアマネジャーアンケート調査	サービス提供事業所アンケート調査
調査対象者数	81件 (83件)	119件 (114件)
有効回収数	52件 [うちWEB回答3件] (54件)	66件 [うちWEB回答8件] (67件)
有効回収率	64.2% (65.1%)	55.5% (58.7%)

#### (4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっている。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合がある。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer = いくつでも)、3LA (3 Limited Answer = 3つまで) と記載している。また、不明 (無回答) はグラフ・表から除いている場合がある。
4. 各種リスクの非該当には判定不能も含む。
5. 表内において、**上位1位**、**上位2位**には色付けをしている。また、全体と比べて10ポイント以上高い場合には△、10ポイント以上低い場合には▼の記号を付けている。

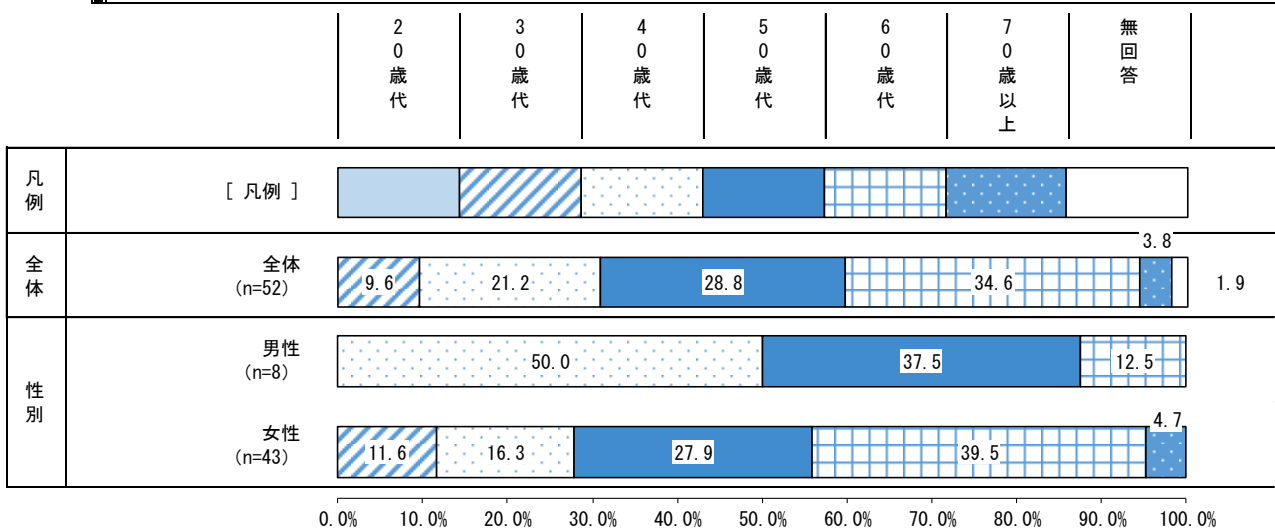
## Ⅱ ケアマネジャーアンケート調査

### 1. ケアマネジャーとしてのあなたご自身について

回答者は60歳代以上が38.4%となっている。また、勤務形態では常勤が78.9%、非常勤が19.2%となっている。

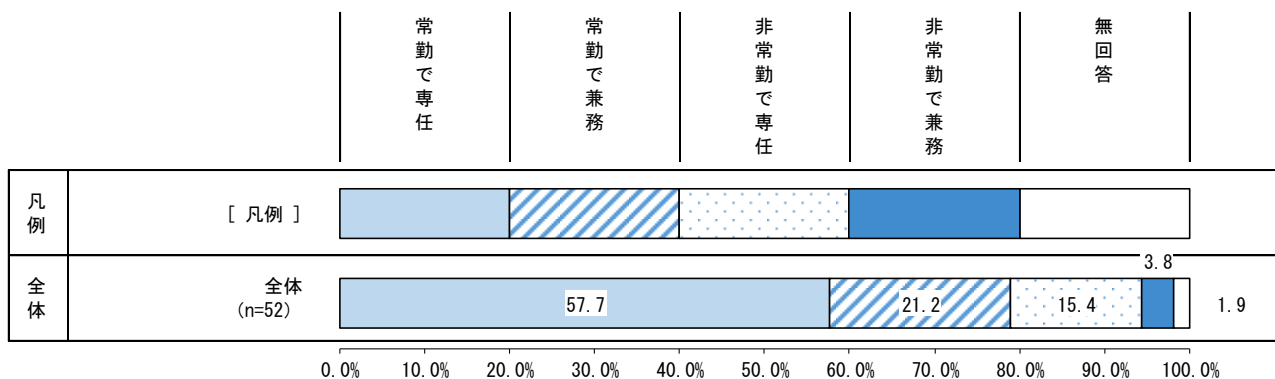
#### ●問2 あなたの年齢をご記入ください。(○は1つ)

- 年齢について、「60歳代」が34.6%で最も多く、次いで「50歳代」が28.8%、「40歳代」が21.2%となっています。
- 男女別にみると、男性は「40歳代」が最も多いのに対し、女性は「60歳代」が最も多くなっています。



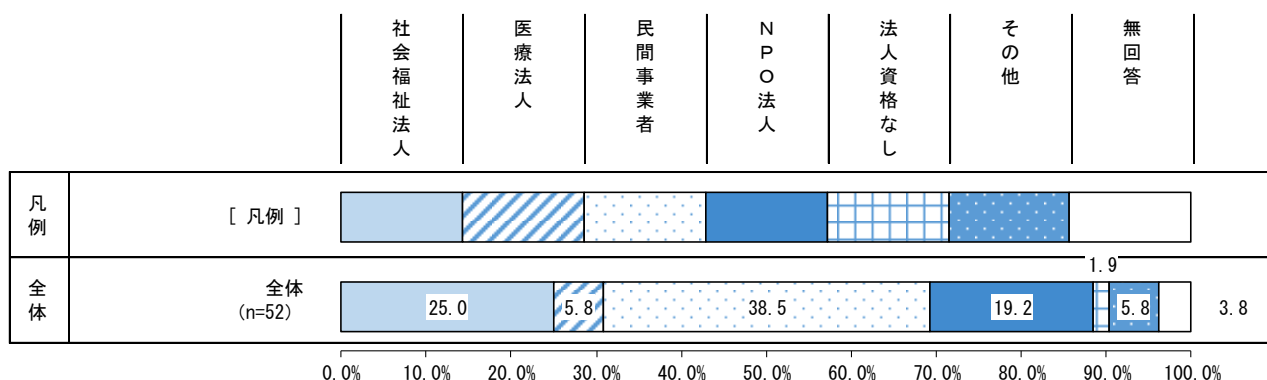
#### ●問5 あなたの勤務形態は、次のうちどれに該当しますか。(○は1つ)

- 勤務形態について、「常勤で専任」が57.7%で最も多く、次いで「常勤で兼務」が21.2%、「非常勤で専任」が15.4%となっています。



●問7 あなたが勤めている法人の種別は、次のうちどれに該当しますか。(○は1つ)

○ 勤めている法人の種別について、「民間事業者」が38.5%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が25.0%、「NPO法人」が19.2%となっています。



## 2. ケアプランの作成や業務について

ケアプランの作成の際にインフォーマルサービスを活用している人は84.6%となっている。ケアプランを作成する上で受けた研修では、新たな制度やシステムに関する事、ケアプランの具体的な記載方法やアセスメントに関する事の回答が多い。

業務における課題では、事務量の多さや煩雑さ、介護報酬に結びつかない業務が多いことの回答が多い。

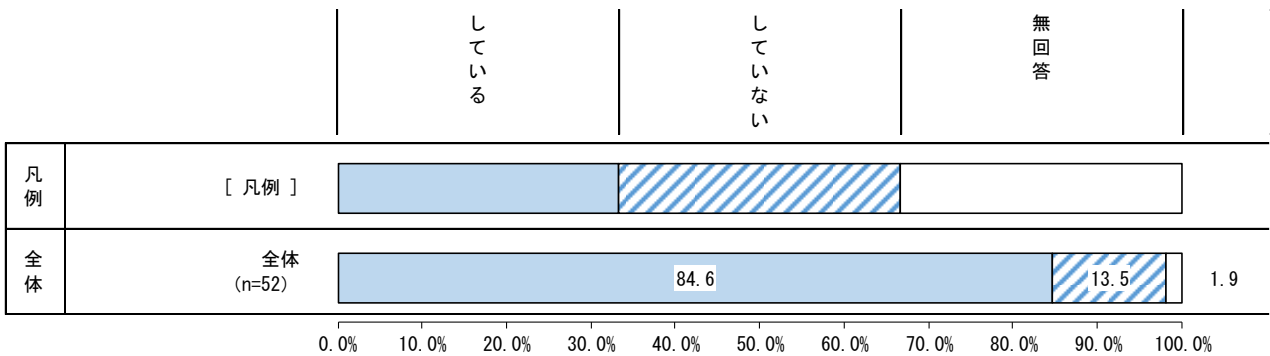
●問9 令和5年1月1日時点におけるご担当について、要介護度別の内訳をそれぞれ人数でご記入ください。(数字を記入)

	計	総合事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
市外を含む利用者数(A)	1,433人	24人	123人	139人	405人	200人	101人	74人	72人
うち守山市民(B)	1,366人	29人	161人	177人	416人	210人	113人	81人	67人
うち医療的ケアが必要な人数(C)	212人	2人	13人	16人	47人	42人	30人	32人	20人
守山市民に占める割合(C÷B)	15.5%	6.9%	8.1%	9.0%	11.3%	20.0%	26.5%	39.5%	29.9%

※内訳の記入がないものがあつたため、内訳と合計人数が異なる場合がある。

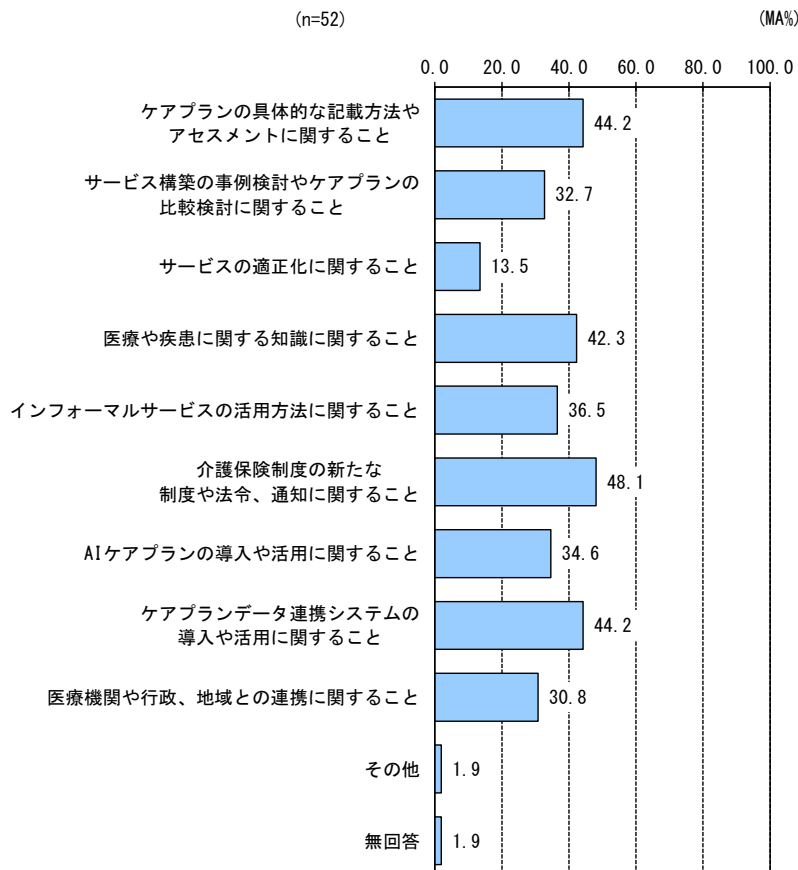
●問11 ケアプランを作成する際、地域の居場所、サロン等の地域資源やインフォーマルサービスを活用していますか。(○は1つ)

○ ケアプランを作成する際の『地域の居場所、サロン等の地域資源やインフォーマルサービス』の活用状況について、「している」が 84.6%、「していない」が 13.5%となっています。



●問12 ケアプランを作成する上で、受けた研修を選んでください。(いくつでも○)

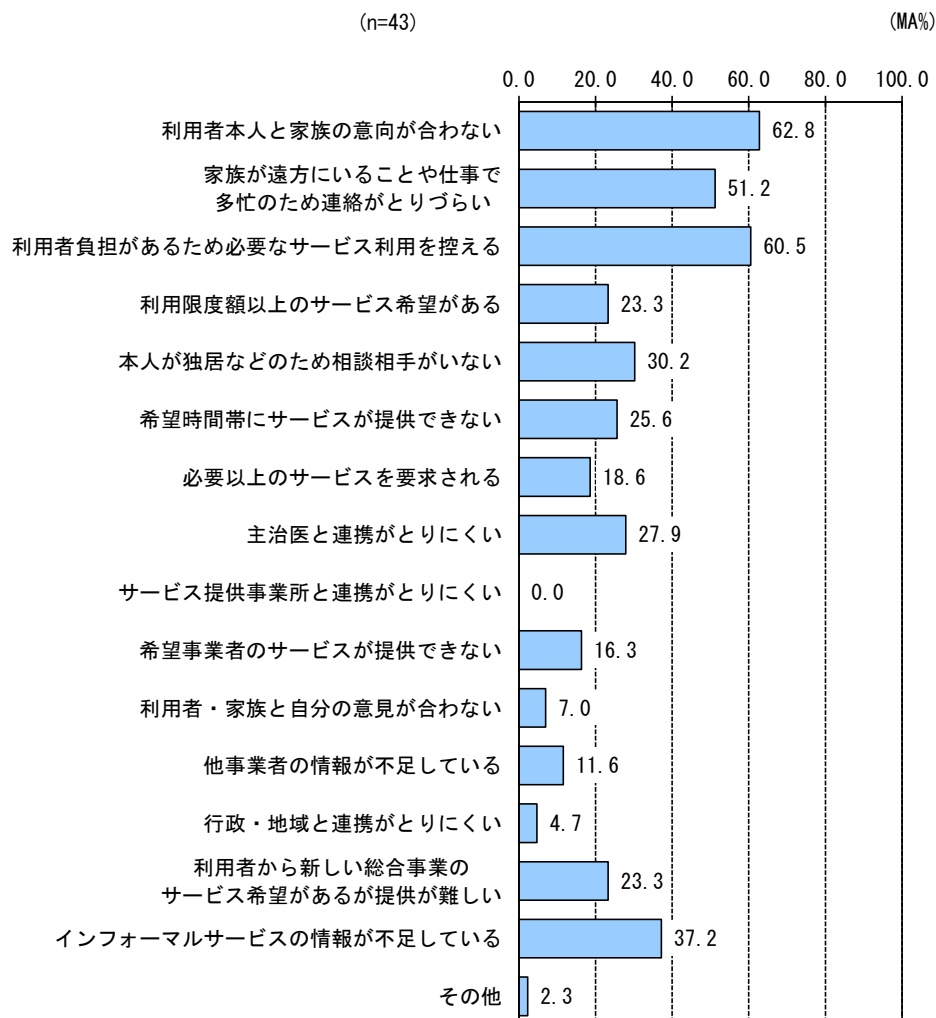
○ 受けた研修の内容について、「介護保険制度の新たな制度や法令、通知に関すること」が 48.1%で最も多く、次いで「ケアプランの具体的な記載方法やアセスメントに関すること」「ケアプランデータ連携システムの導入や活用に関すること」が 44.2%、「医療や疾患に関する知識に関すること」が 42.3%となっています。



●問13.1 ケアプランを作成する上でどのようなことで困ることがありましたか。

(いくつでも○)

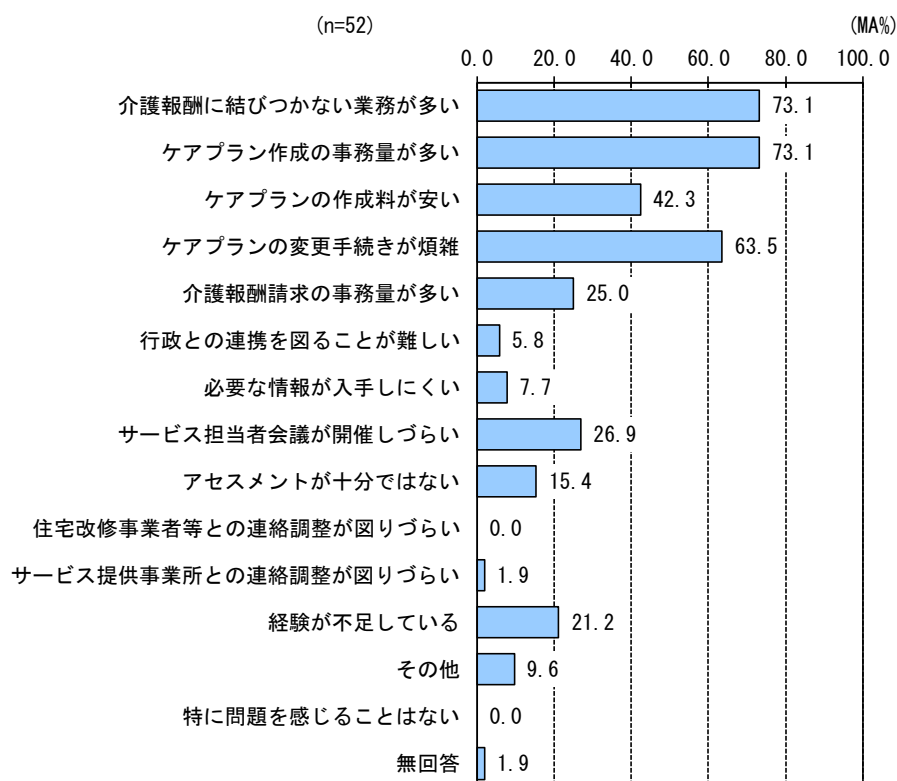
○ ケアプランを作成する上で困ることについて、「利用者本人と家族の意向が合わない」が62.8%で最も多く、次いで「利用者負担があるため必要なサービス利用を控える」が60.5%、「家族が遠方にいることや仕事で多忙のため連絡がとりづらい」が51.2%となっています。



●問15 自分自身や他のケアマネジャーが円滑に業務を行う上での課題は何ですか。

(いくつでも○)

○ 円滑に業務を行う上での課題について、「介護報酬に結びつかない業務が多い」「ケアプラン作成の事務量が多い」が 73.1%で最も多く、次いで「ケアプランの変更手続きが煩雑」が 63.5%、「ケアプランの作成料が高い」が 42.3%となっています。



### 3. 他機関・団体等との連携について

サービス提供事業所との関係における課題では「特に問題はない」が44.2%であり、主治医（連携における課題が「特にない」17.3%）や歯科医師（連携における課題が「特にない」25.0%）に比べ連携がとりやすいと考えられる。

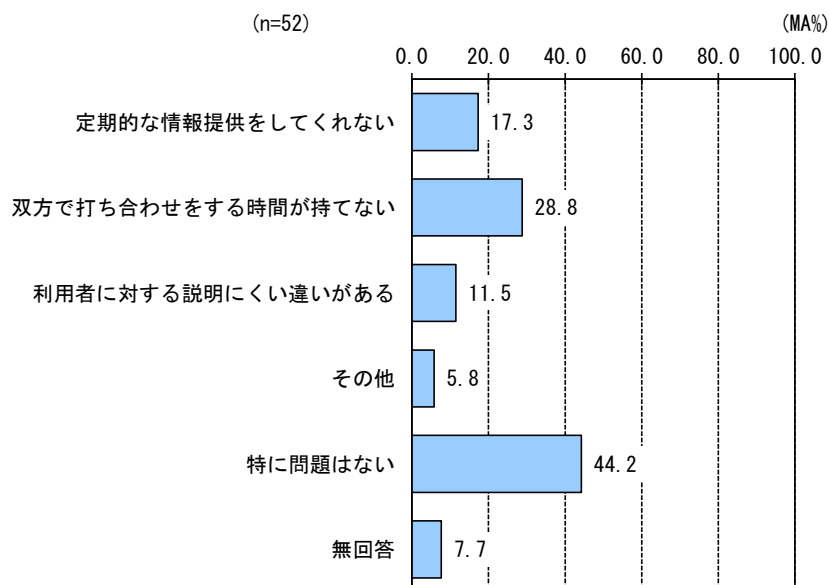
主治医との連携における課題では、「多忙で連絡が取りにくい」との回答が65.4%が多いが、「主治医との連携はあまりしていない」という回答は0.0%であり、主治医との連携に課題がありながらも連携をとっているとわかる。一方、「歯科医師との連携はあまりしていない」は38.5%となっている。

地域包括支援センターへの相談は「ある」が88.5%であり、そのうち課題解決に“役立つ（「役立った」「ある程度役立った」の合計）”は80.4%となっている。地域包括支援センターに機能強化してほしいことでは「困難事例への支援の充実」が82.7%が多い。

関係機関との連携では、“とっていない（「ほとんどとっていない」「とっていない」の合計）”が多いのは、[障害者施設、相談支援員]が63.5%、[他の居宅介護事業所・ケアマネジャー]が55.7%となっている。

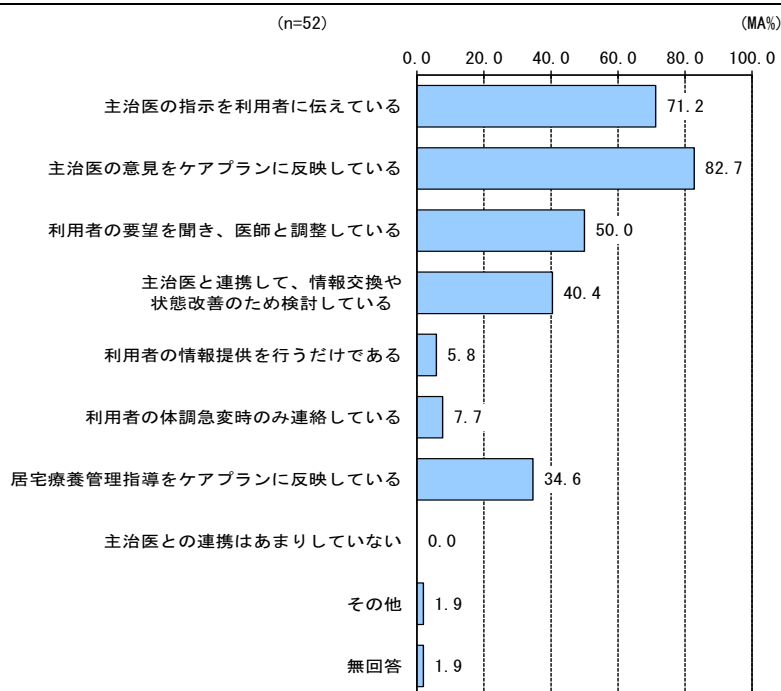
#### ●問18 サービス提供事業所との関係における課題はどのようなことですか。（いくつでも○）

- サービス提供事業所との関係における課題について、「特に問題はない」が44.2%で最も多く、次いで「双方で打ち合わせをする時間が持てない」が28.8%、「定期的な情報提供をしてくれない」が17.3%となっています。



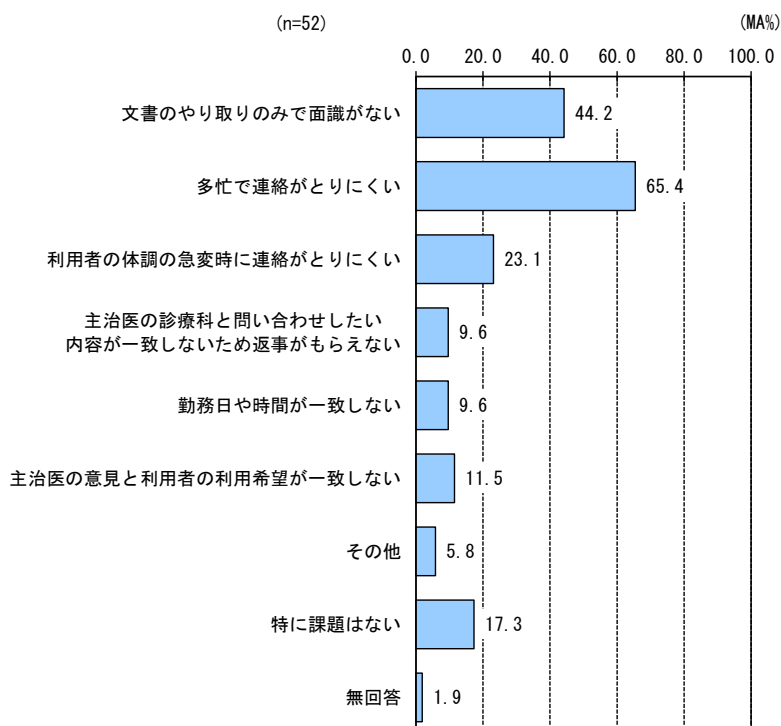
●問20 主治医とはどのようなことについて連携をとっていますか。(いくつでも○)

○ 主治医と連携をとっていることについて、「主治医の意見をケアプランに反映している」が82.7%で最も多く、次いで「主治医の指示を利用者に伝えている」が71.2%、「利用者の要望を聞き、医師と調整している」が50.0%となっています。



●問21 主治医との連携を図る上での課題は何ですか。(いくつでも○)

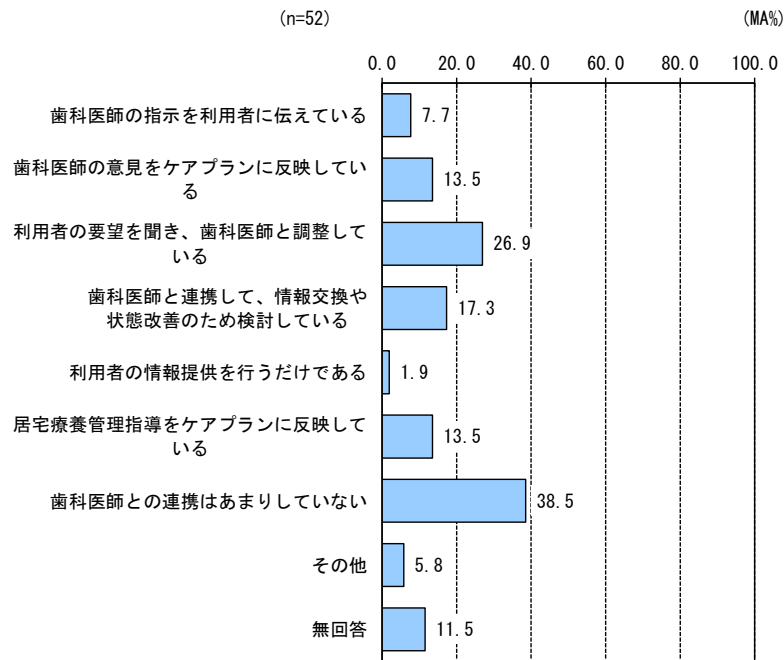
○ 主治医との連携を図る上での課題について、「多忙で連絡がとりにくい」が65.4%で最も多く、次いで「文書のやり取りのみで面識がない」が44.2%、「利用者の体調の急変時に連絡がとりにくい」が23.1%となっています。





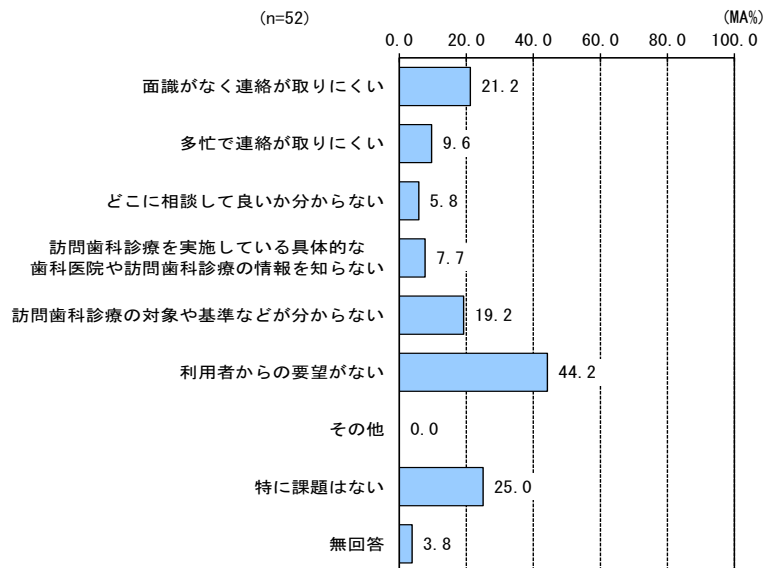
●問23 歯科医師とはどのようなことについて連携をとっていますか。(いくつでも○)

○ 歯科医師と連携をとっていることについて、「歯科医師との連携はあまりしていない」が 38.5%で最も多く、次いで「利用者の要望を聞き、歯科医師と調整している」が 26.9%、「歯科医師と連携して、情報交換や状態改善のため検討している」が 17.3%となっています。



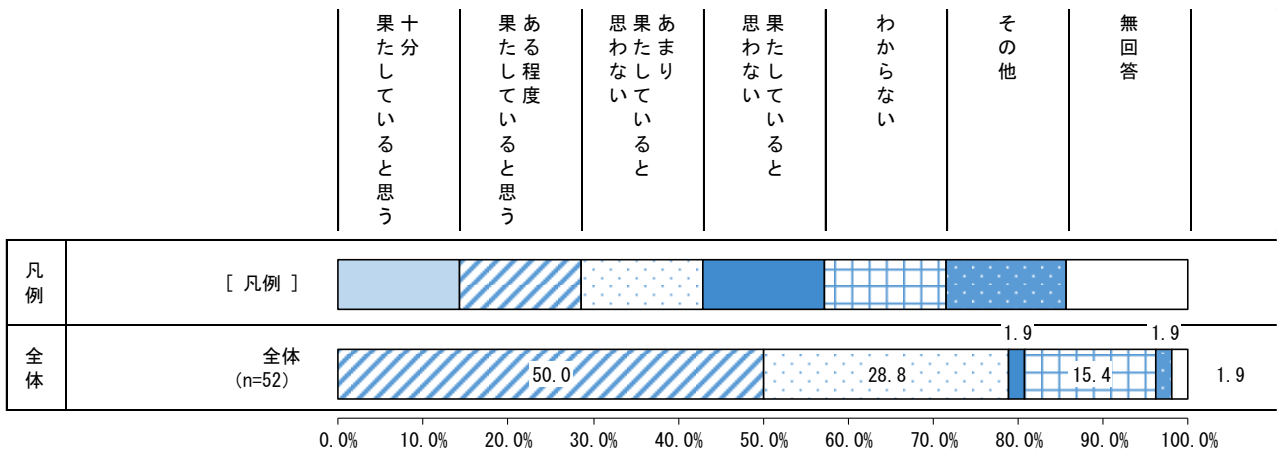
●問24 口腔ケアに関して歯科医師との連携を図る上での課題は何ですか。(いくつでも○)

○ 口腔ケアに関して歯科医師と連携を図る上での課題について、「利用者からの要望がない」が 44.2%で最も多く、次いで「特に課題はない」が 25.0%、「面識がなく連絡が取りにくい」が 21.2%となっています。



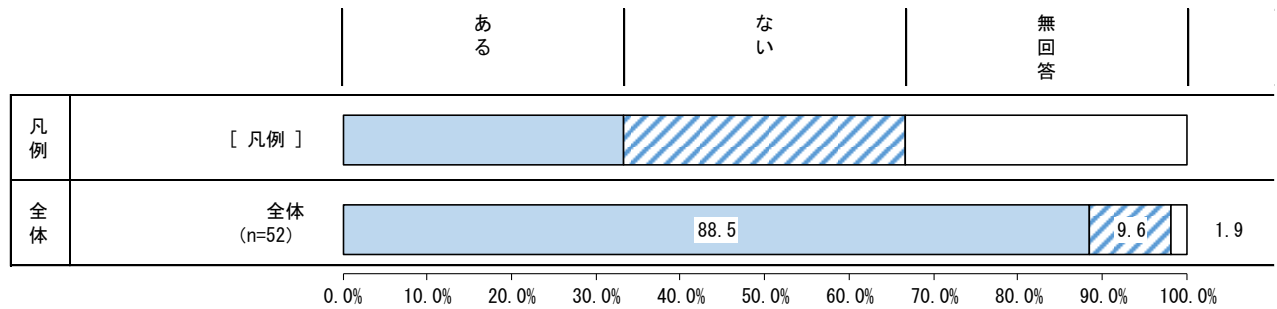
●問27 現在、地域包括支援センターが、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられるよう取組を行っています。その役割を果たしていると思いますか。(○は1つ)

○ 地域包括支援センターが役割を果たしていると思うかについて、「ある程度果たしていると思う」が 50.0%で最も多く、次いで「あまり果たしていると思わない」が 28.8%、「わからない」が 15.4%となっています。



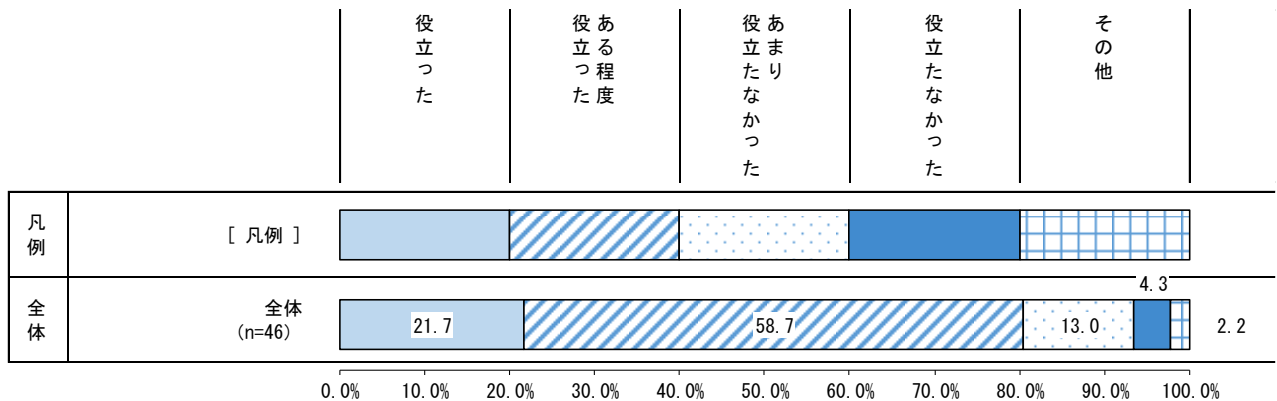
●問28 困難事例などを地域包括支援センターに相談したことがありますか。(○は1つ)

○ 地域包括支援センターへの相談経験の有無について、「ある」が 88.5%、「ない」が 9.6%となっています。



●問28.1 【問28で「1. ある」と回答された方】相談したことによって、問題解決に役立ちましたか。(○は1つ)

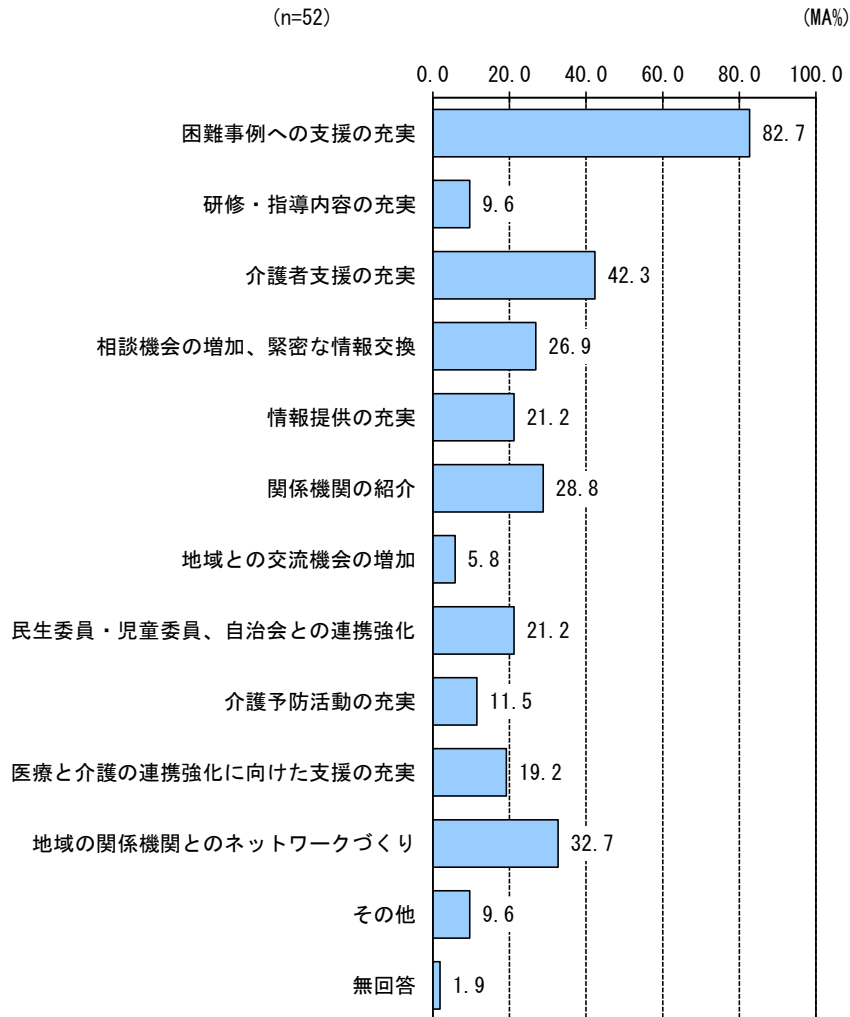
○ 相談したことが問題解決に役立ったかについて、「ある程度役立った」が 58.7%で最も多く、次いで「役立った」が 21.7%、「あまり役立たなかった」が 13.0%となっています。



●問29 地域包括支援センターに機能強化してほしいと思うことは何ですか。(いくつでも○)

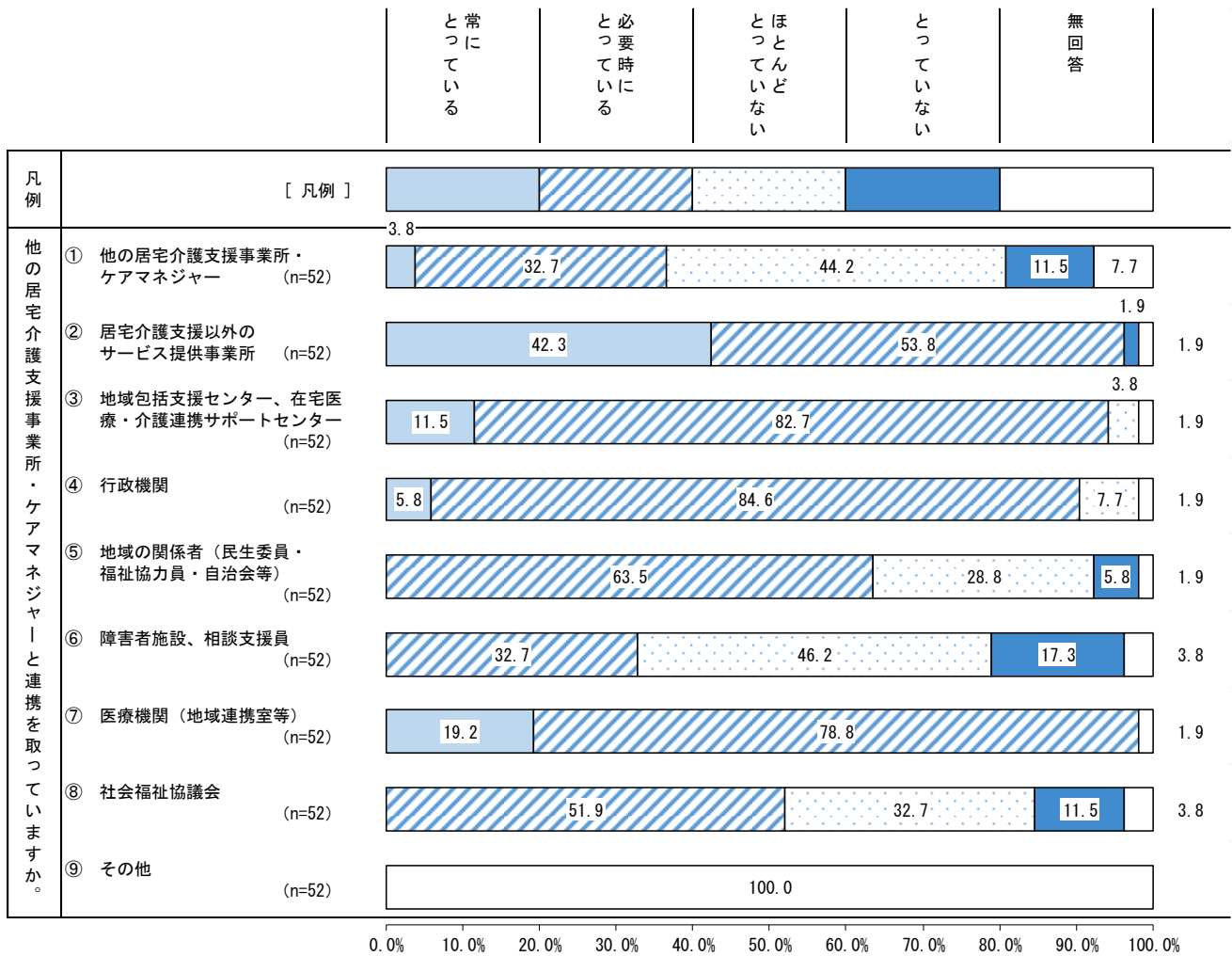
○ 地域包括支援センターに機能強化してほしいと思うことについて、「困難事例への支援の充実」が 82.7%で最も多く、次いで「介護者支援の充実」が 42.3%、「地域の関係機関とのネットワークづくり」が 32.7%となっています。

【地域包括支援センターに機能強化してほしいこと】



●問30 以下の関係機関等と連携を取っていますか。(それぞれ○は1つ)

- ②居宅介護支援以外のサービス提供事業所では「常にとっている」が 42.3%と他の区分に比べて多くなっています。
- ⑥障害者施設、相談支援員では「とっていない」が 17.3%と他の区分に比べて多くなっています。



#### 4. 感染症の影響について

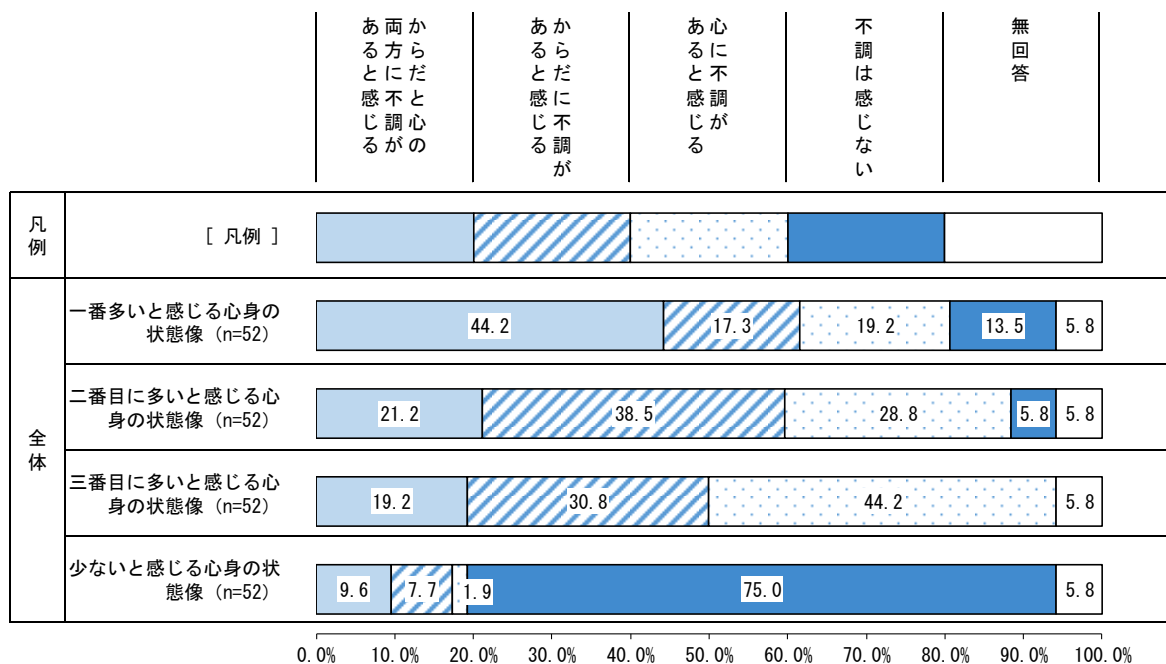
ケアマネジャーからみて、利用者の多くが、からだや心に不調のある状態になっている。

- 問31 新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、あなたが担当する利用者の心身の状態像を多いと感じる順に①～④を記入してください

**【全体】**

- 一番多いと感じる心身の状態像について、「からだと心の両方に不調があると感じる」が44.2%で最も多く、次いで「心に不調があると感じる」が19.2%、「からだに不調があると感じる」が17.3%となっています。
- 二番目に多いと感じる心身の状態像について、「からだに不調があると感じる」が38.5%で最も多く、次いで「心に不調があると感じる」が28.8%、「からだと心の両方に不調があると感じる」が21.2%となっています。
- 三番目に多いと感じる心身の状態像について、「心に不調があると感じる」が44.2%で最も多く、次いで「からだに不調があると感じる」が30.8%、「からだと心の両方に不調があると感じる」が19.2%となっています。
- 少ないと感じる心身の状態像について、「不調は感じない」が75.0%で最も多く、次いで「からだと心の両方に不調があると感じる」が9.6%、「からだに不調があると感じる」が7.7%となっています。

**【利用者の心身の状態】**



## 5. 高齢者施策全般について

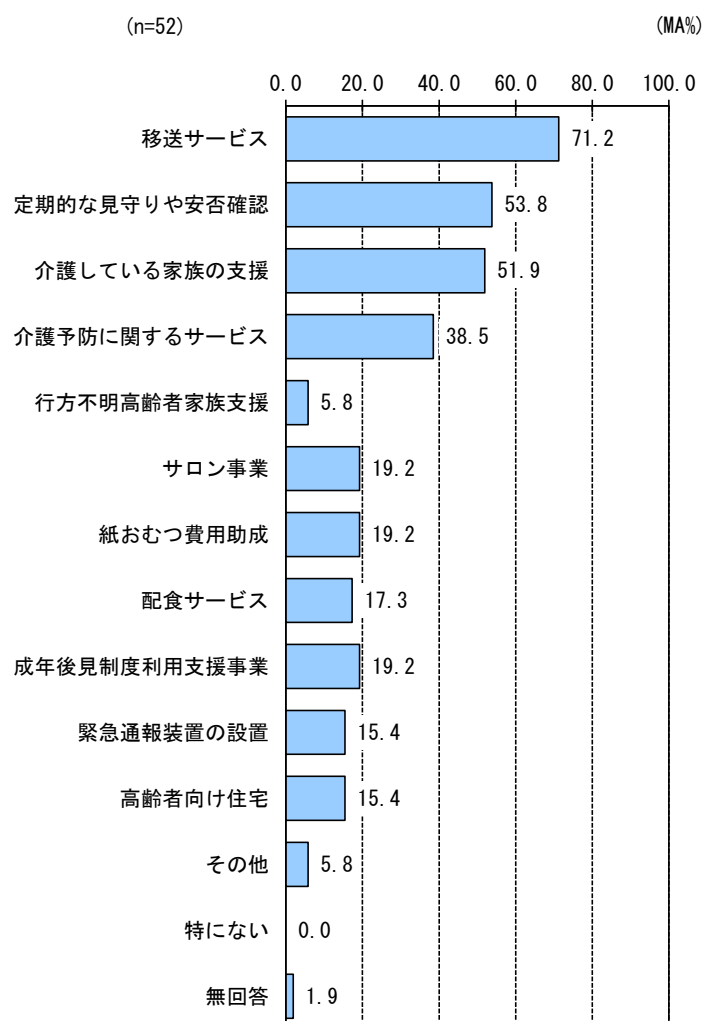
守山市が充実すべきサービスや支援活動では、「移送サービス」「定期的な見守りや安否確認」「介護している家族の支援」が多くなっている。また、インフォーマルサービスの充実に向けて地域にあればよい活動についても、外出への対応や見守り活動が特に多くなっている。

ケアマネジャーへの対応として市に期待することでは、「介護保険の迅速な要介護認定」「介護保険制度（総合事業含む）に関する情報の提供」が多い。

今後認知症施策を進めていく上で重点を置くべきことでは、家族負担の軽減や、認知症の人の社会参加支援が多。また、認知症予防や、在宅生活を支える見守り活動も多くなっている。

- 問32 高齢者への福祉サービスで守山市が充実すべきサービスや支援活動は何ですか。（いくつでも○）

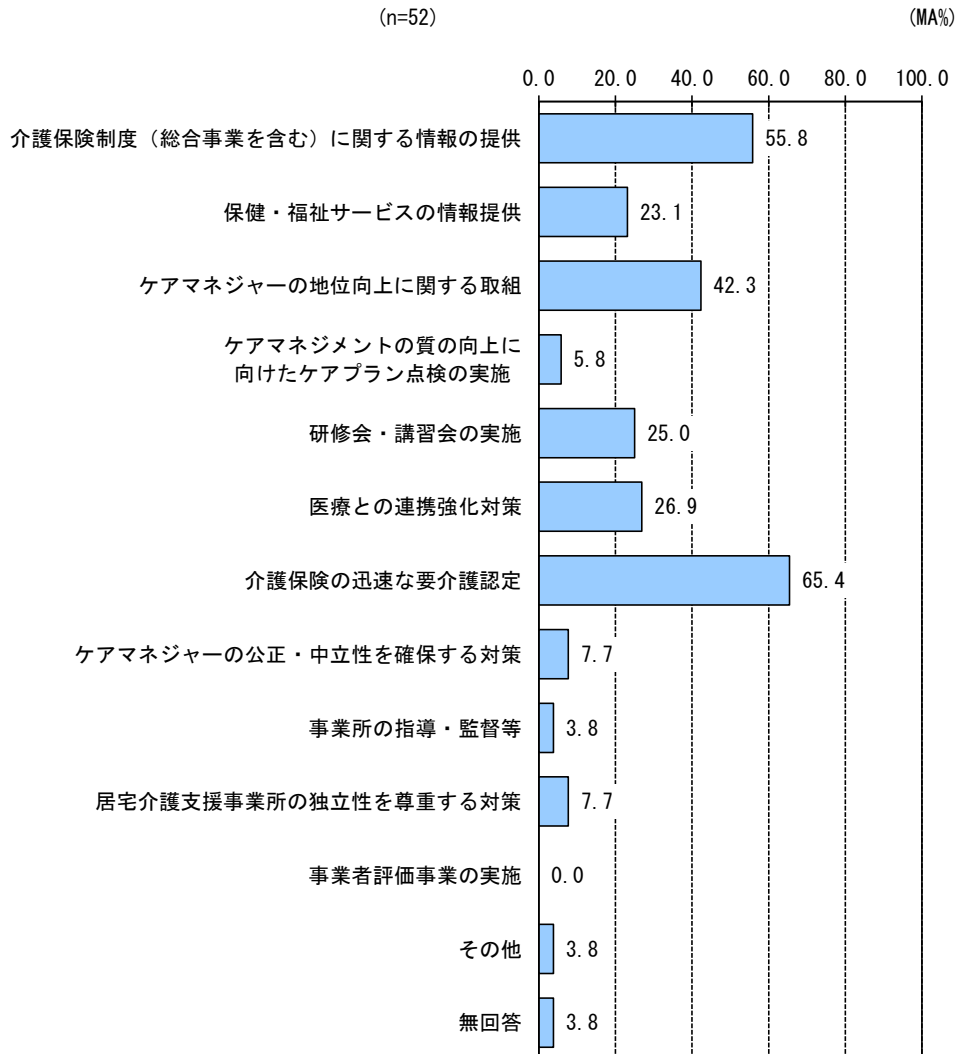
○ 高齢者への福祉サービスで守山市が充実すべきサービスや支援活動について、「移送サービス」が 71.2%で最も多く、次いで「定期的な見守りや安否確認」が 53.8%、「介護している家族の支援」が 51.9%となっています。



●問33 ケアマネジャーへの対応として、行政に期待することは何ですか。(いくつでも○)

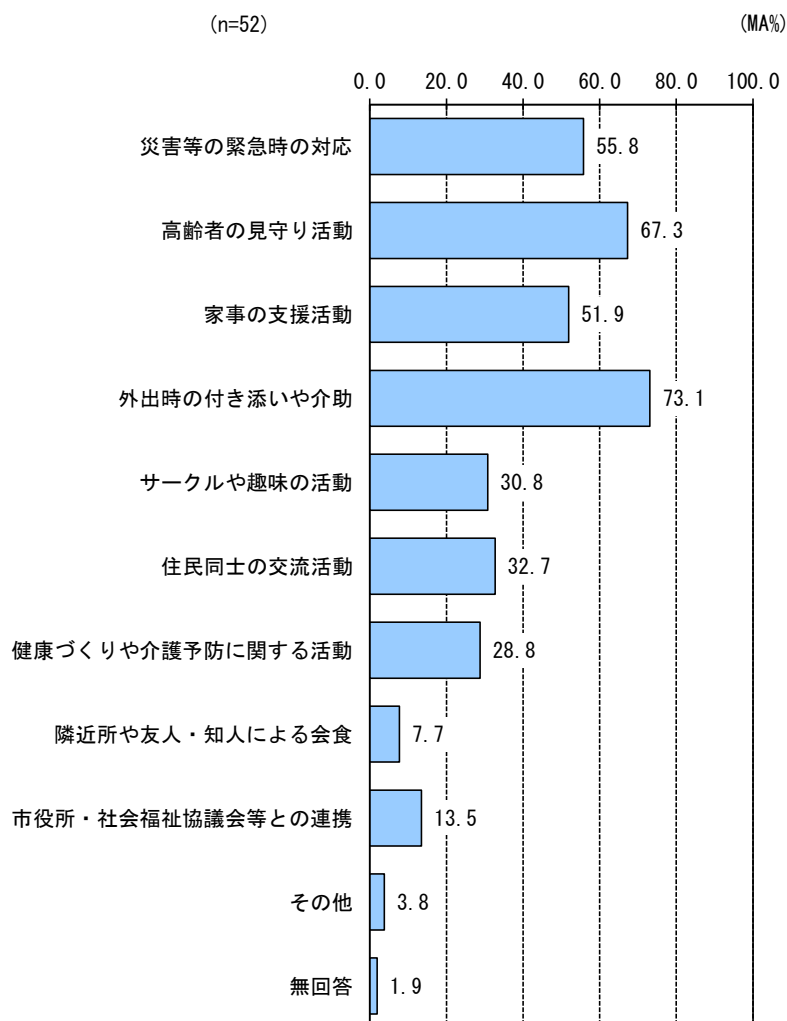
○ ケアマネジャーへの対応として、行政に期待することについて、「介護保険の迅速な要介護認定」が 65.4%で最も多く、次いで「介護保険制度（総合事業を含む）に関する情報の提供」が 55.8%、「ケアマネジャーの地位向上に関する取組」が 42.3%となっています。

【ケアマネジャーへの対応として行政に期待すること】



●問34 インフォーマルサービスの充実に向けて、地域にどのような活動があれば良いと思いますか。(いくつでも○)

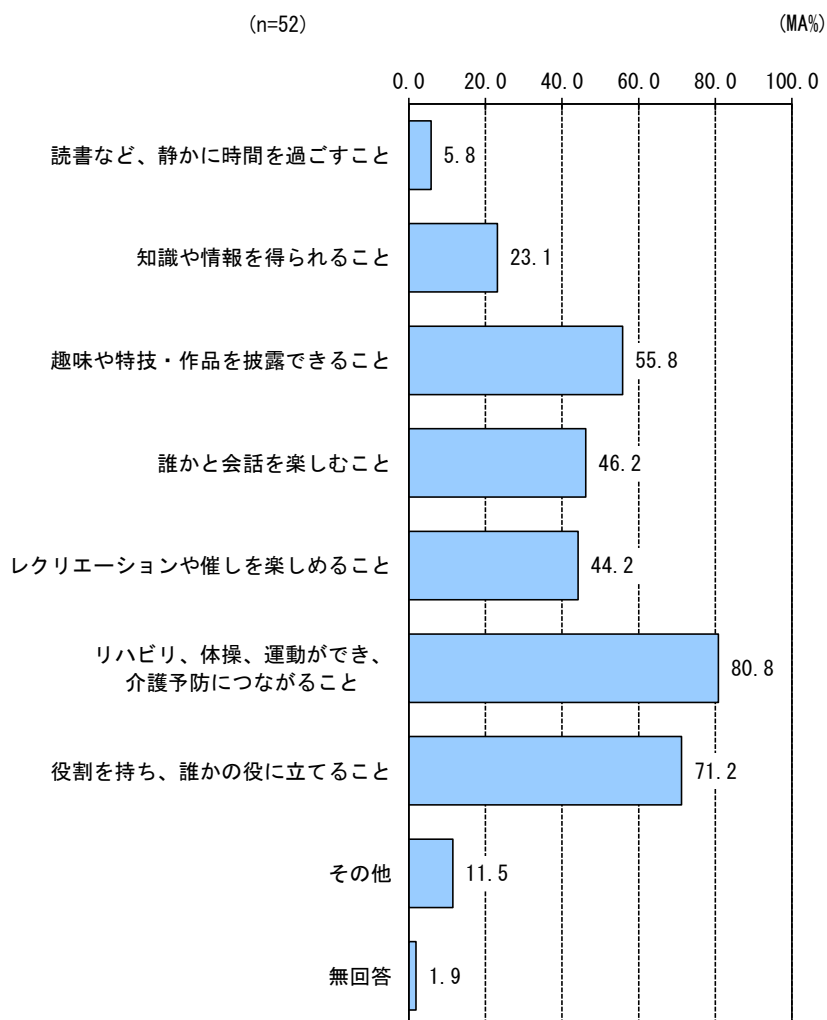
○ インフォーマルサービスの充実に向けて、地域にあれば良いと思う活動について、「外出時の付き添いや介助」が73.1%で最も多く、次いで「高齢者の見守り活動」が67.3%、「災害等の緊急時の対応」が55.8%となっています。





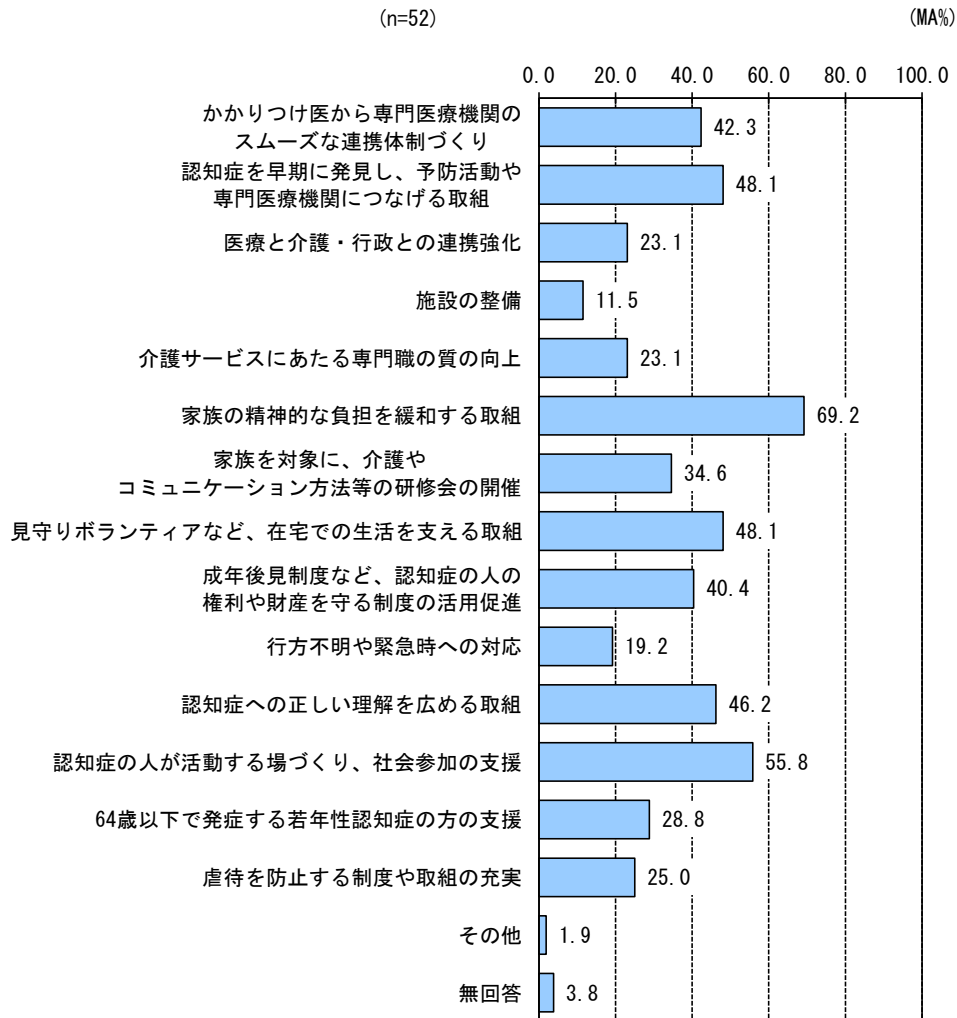
●問35 今後、考えられる新たな通所サービスについて、どのような内容を期待しますか。(いくつかでも○)

○ 今後、考えられる新たな通所サービスについて、期待する内容として、「リハビリ、体操、運動ができ、介護予防につながること」が 80.8%で最も多く、次いで「役割を持ち、誰かの役に立てること」が 71.2%、「趣味や特技・作品を披露できること」が 55.8%となっています。



●問36 今後、認知症施策を進めていく上で、守山市はどのようなことに重点を置くべきだと考えますか。(いくつでも○)

○ 今後、認知症施策を進めていく上で、守山市が重点を置くべきだと思う取組について、「家族の精神的な負担を緩和する取組」が69.2%で最も多く、次いで「認知症の人が活動する場づくり、社会参加の支援」が55.8%、「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組」「見守りボランティアなど、在宅での生活を支える取組」が48.1%となっています。



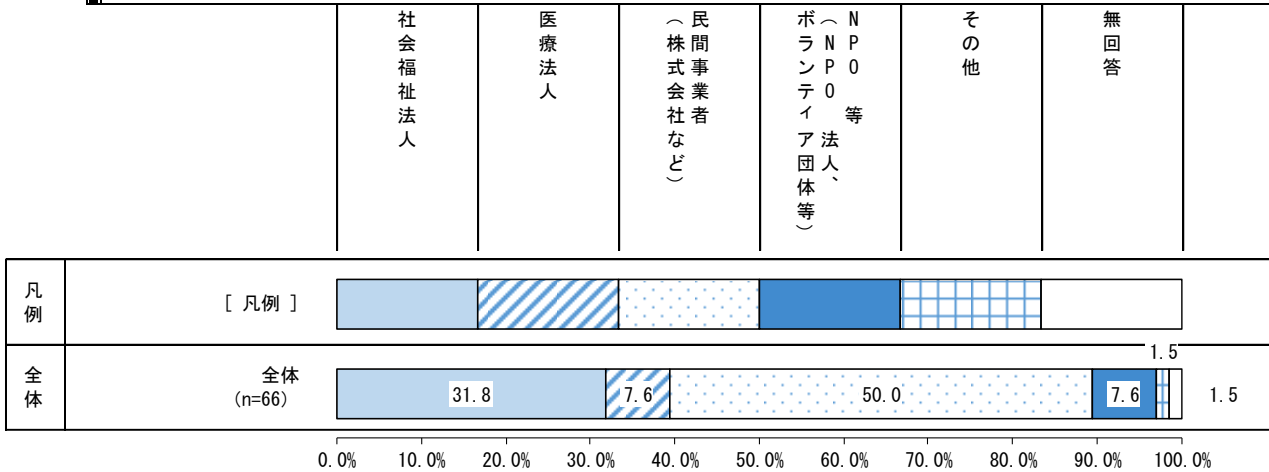
### Ⅲ サービス提供事業所アンケート調査

#### 1. 貴事業所の概要について

●問1 貴事業所の概要をご記入ください。

(令和5年1月1日現在の状況についてご記入ください)

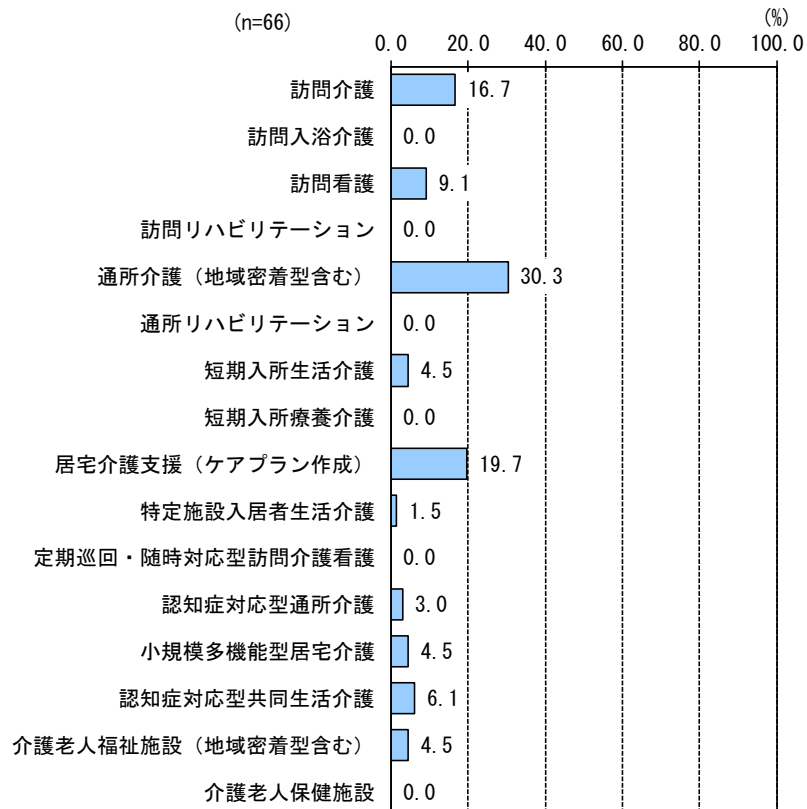
○ 運営形態について、「民間事業者（株式会社など）」が 50.0%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が 31.8%、「医療法人」「NPO 等（NPO 法人、ボランティア団体等）」が 7.6%となっています。



●問2 ①貴事業所が提供しているサービス種類をご回答ください。

(令和4年12月のサービス提供状況を記入してください)

○ サービスの種類について、「通所介護（地域密着型含む）」が 30.3%で最も多く、次いで「居宅介護支援（ケアプラン作成）」が 19.7%、「訪問介護」が 16.7%となっています。



## 2. サービスの提供状況、実施状況と今後の方向性について

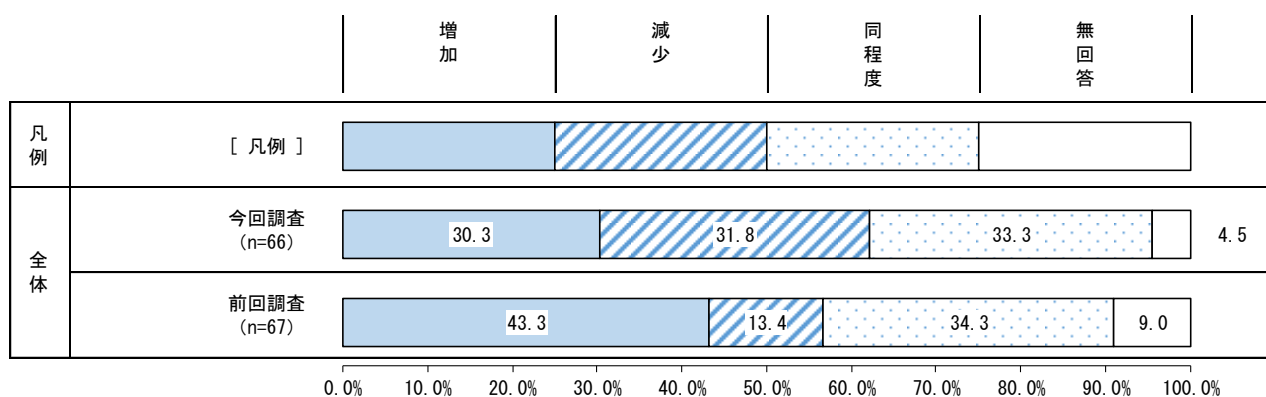
令和元年度と比べた利用者数は、「増加」が43.3%、「減少」が13.4%となっている。

介護予防・日常生活支援総合事業の生活援助サービスに参入している事業所における運営の課題では、採算性への不安が最も多く、次いで従事者の負担増加が多い。また、参入していない事業所におけるその理由及び参入への課題では、事業運営の採算性、従事者の確保の回答が多い。

今後市内で、事業や施設を新規に予定していないとの回答が78.8%となっている。予定のない理由では、人材不足への懸念や事業全体に収益が見込めないことがあがっている。

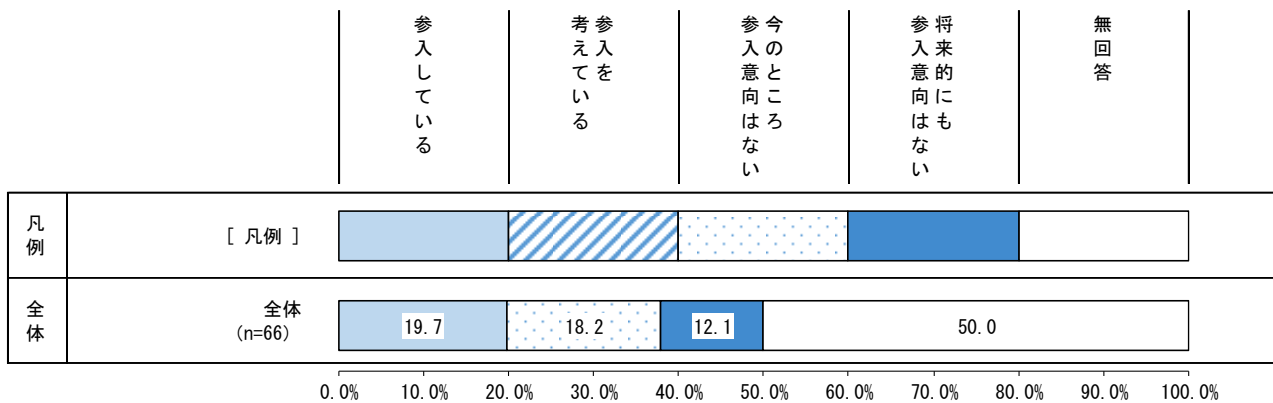
●問2 ②令和元年度と比べた利用者数の状況について、ご記入ください。

(令和4年12月のサービス提供状況を記入してください)



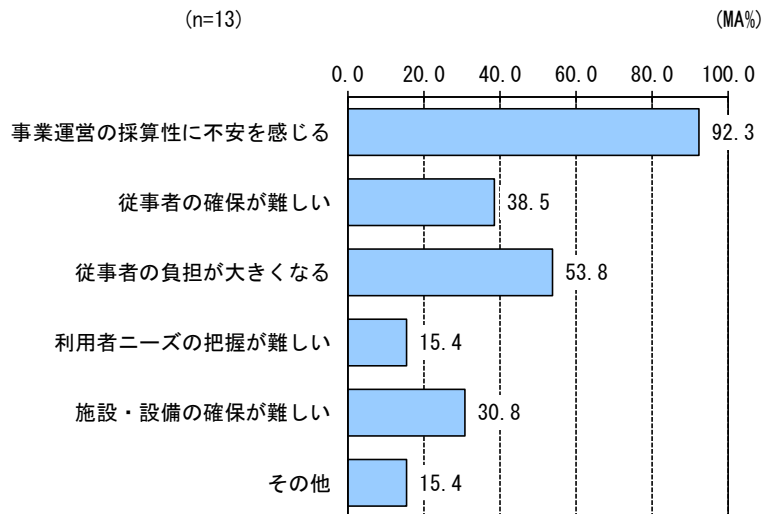
- 問3 【訪問介護と通所介護を運営されている事業所におうかがいします。】貴事業所では、令和5年1月1日時点において、介護予防・日常生活支援総合事業の生活援助サービス、ゆったりデイ、リハビリデイ（現行相当サービスは除く）に参入していますか。または今後参入意向はありますか。（○は1つ）

○ 生活援助サービス、ゆったりデイ、リハビリデイ（現行相当サービスは除く）への参入意向について、「参入している」が19.7%で最も多く、次いで「今のところ参入意向はない」が18.2%、「将来的にも参入意向はない」が12.1%となっています。



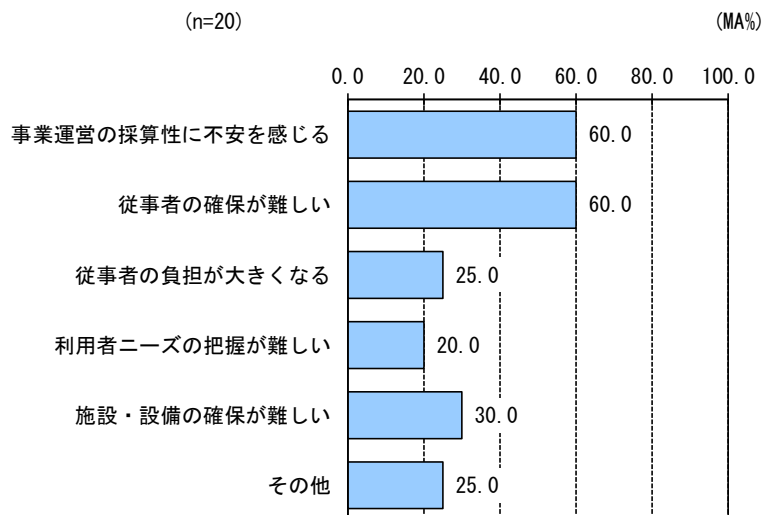
- 問3.1 【問3で「1. 参入している」と回答した事業所のみにおうかがいします。】運営にあたり課題に思うことは何ですか。（いくつでも○）

○ 生活援助サービス等を運営する上での課題について、「事業運営の採算性に不安を感じる」が92.3%で最も多く、次いで「従事者の負担が大きくなる」が53.8%、「従事者の確保が難しい」が38.5%となっています。



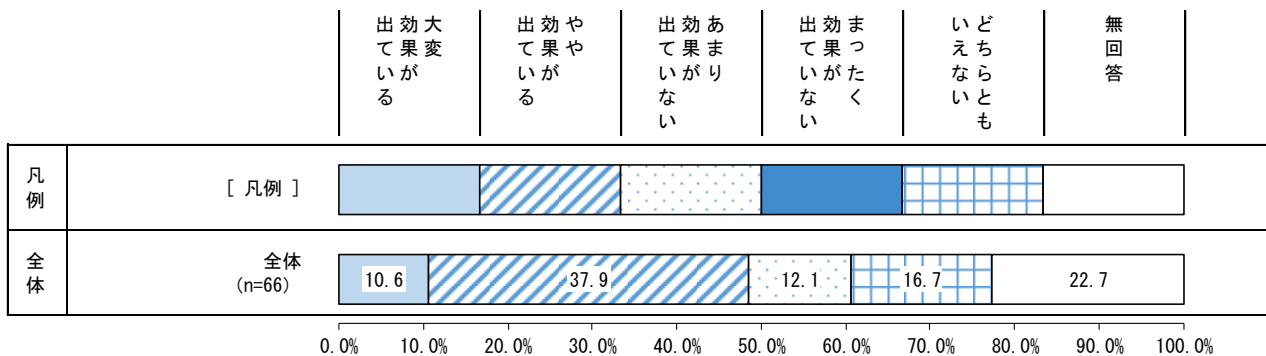
- 問3.3 【問3で「2. 参入を考えている」、「3. 今のところ参入意向はない」または「4. 将来的にも参入意向はない」と回答した事業所のみにおうかがいします。】参入するにあたり不安・課題に思うこと、また、参入の予定がない理由は何ですか。(いくつかでも○)

○ 生活援助サービス等への参入に対して不安・課題に思うこと、また、参入の予定がない理由について、「事業運営の採算性に不安を感じる」「従事者の確保が難しい」が 60.0%で最も多く、次いで「施設・設備の確保が難しい」が 30.0%、「従事者の負担が大きくなる」「その他」が 25.0%となっています。



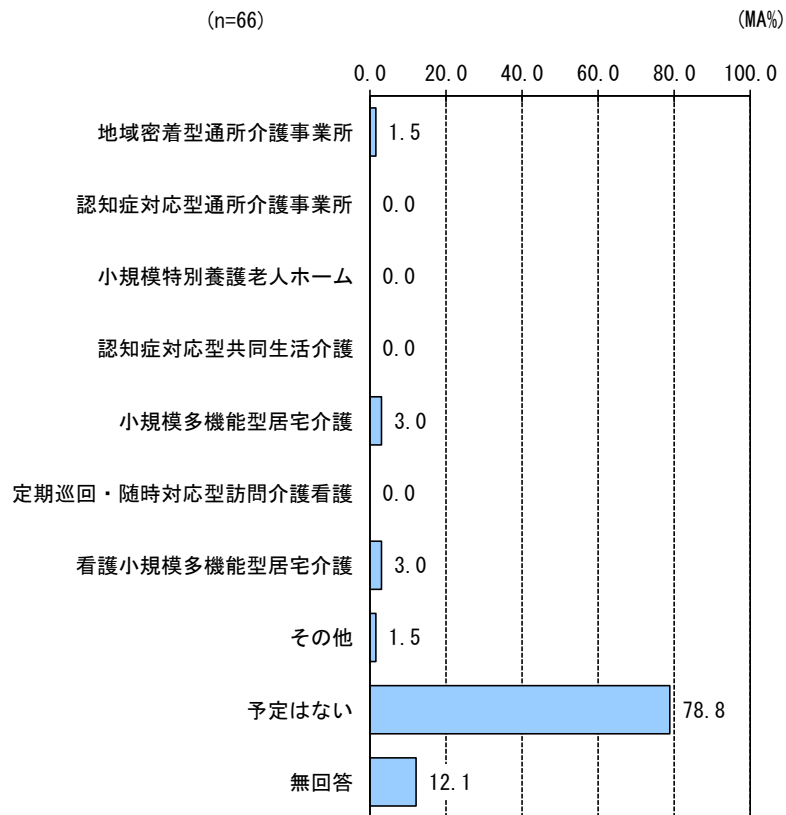
- 問4 サービスの利用者について、利用開始以降で、利用者に改善・予防の効果が出ていると思いますか。(○は1つ)

○ サービス利用者の改善・予防の成果について、「やや効果が出ている」が 37.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が 16.7%、「あまり効果が出ていない」が 12.1%となっています。



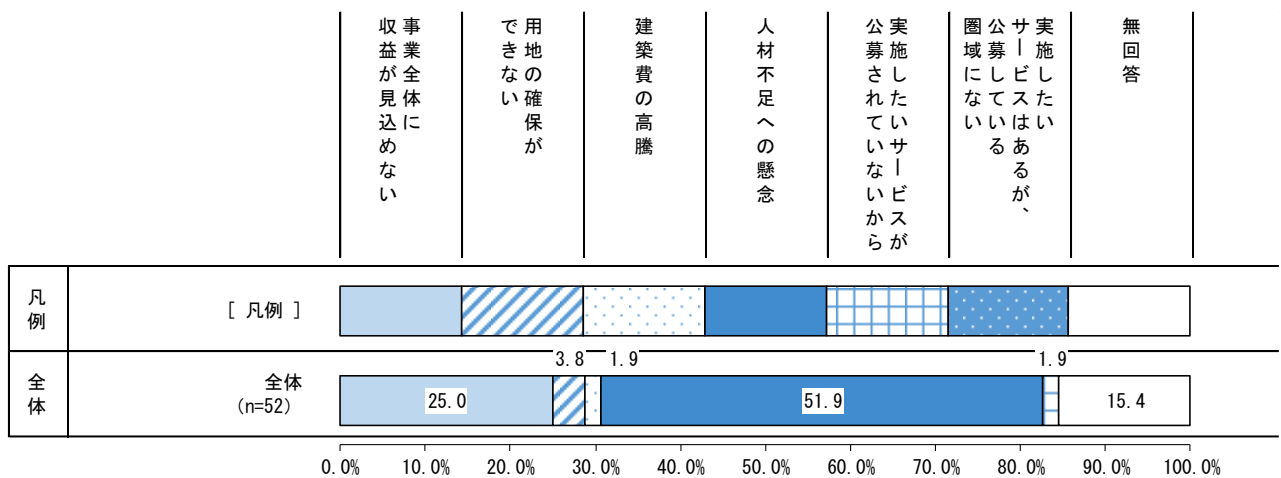
●問5.1 今後市内で新規に実施予定の事業や新規検討中の施設があれば教えてください。(いくつでも○)

○ 新規に実施予定の事業または新規検討中の施設の有無について、「予定はない」が78.8%で最も多く、次いで「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」が3.0%、「地域密着型通所介護事業所」が1.5%となっています。



●問5.2 【問5-1で「9. 予定はない」と回答した事業所のみにおうかがいします。】その理由についてお答えください。(○は1つ)

○ 新規事業等の予定がない理由について、「人材不足への懸念」が51.9%で最も多く、次いで「事業全体に収益が見込めない」が25.0%、「用地の確保ができない」が3.8%となっています。



### 3. 事業所運営について

事業所運営に関する困難では、人材の確保・育成や事務作業の多さに関する回答が多い。

新型コロナウイルス感染症の影響により経営状態が悪化した事業所が約6割であり、価格を変更・または変更を予定している事業所は約2割となっている。

人材確保の状況について、“確保できている（「確保できている」「おおむね確保できている」の合計）”が40.9%、“確保できていない（「あまり確保できていない」「確保できていない」の合計）”が53.1%となっており、人材確保が困難な状況がわかります。

職員定着の状況について、“定着している（「定着し安定している」「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」の合計）”が75.8%、「離職者が多く、不安定である」が15.2%となっている。

人材確保、職員定着への課題では、給与水準や、精神的・体力的な厳しさの回答が多い。

- 問7 貴事業所の令和5年1月1日時点における従業員（サービスを直接提供する者）の人数と内訳

#### ○従業員人数

従業員の人数（うち兼務人数）				732人（131人）	
性別	正規職員人数	非正規職員人数	派遣職員人数	合計	
男性	84人（28人）	37人（2人）	5人（3人）	125人（34人）	
女性	228人（52人）	337人（63人）	29人（0人）	594人（113人）	

#### ○従業者のうち資格保持者

従業者のうち資格保持者					777人
介護福祉士	介護支援専門員	看護師准看護師	介護職員初任者研修	実務者研修	
287人	82人	158人	128人	49人	

#### ○従業員の年齢構成

従業員の年齢構成					
20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
8人	45人	128人	184人	176人	217人

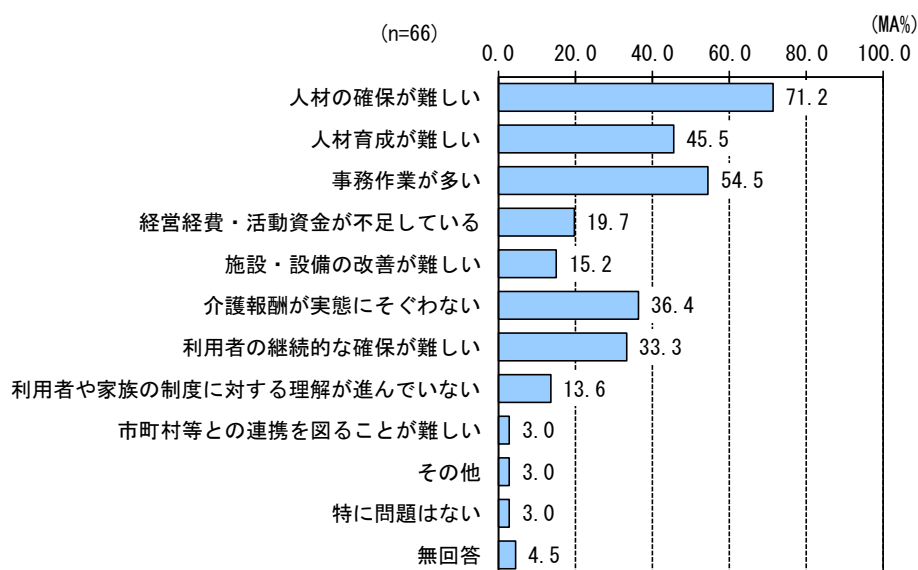
#### ○令和4年1月から令和4年12月までの採用退職状況

令和4年1月から令和4年12月までの採用退職状況			
	正規職員人数	非正規職員人数	合計
採用者数	49人	60人	108人
退職者数	36人	50人	86人



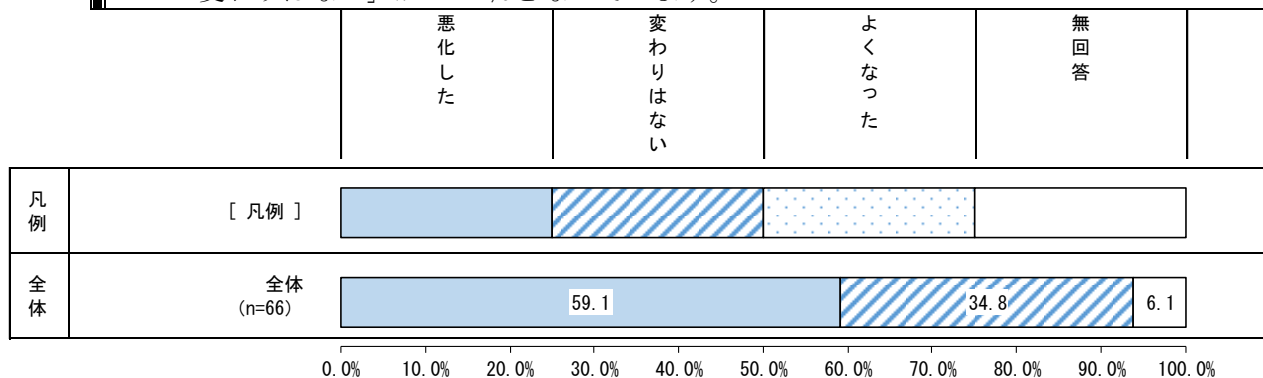
●問8 貴事業所の運営に関して現在、困難を感じることは何ですか。(いくつでも○)

○ 運営に関して困難を感じることにについて、「人材の確保が難しい」が71.2%で最も多く、次いで「事務作業が多い」が54.5%、「人材育成が難しい」が45.5%となっています。



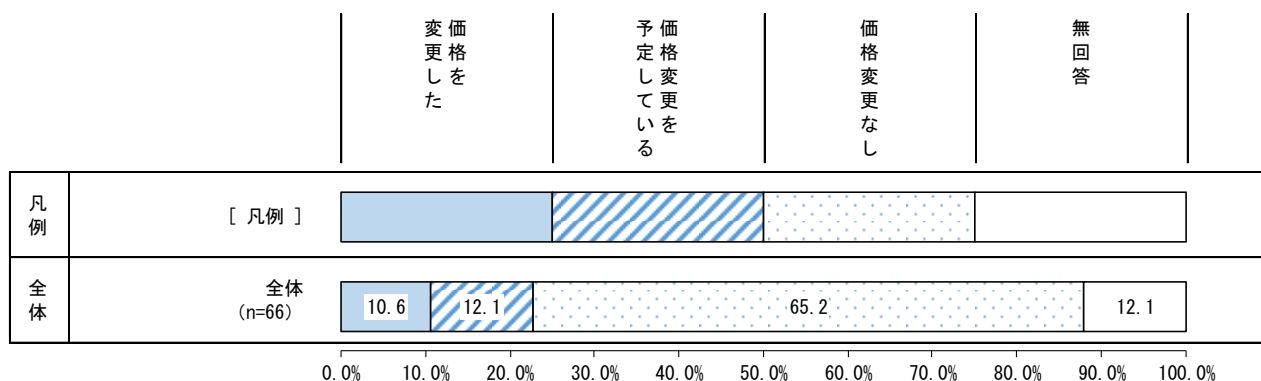
●問9 新型コロナウイルス感染症の流行、物価高騰等社会情勢の変化の影響を受け、貴事業所の経営状態に変化はありましたか。(○は1つ)

○ 社会情勢の変化による経営状態の変化について、「悪化した」が59.1%で最も多く、次いで「変わりはない」が34.8%となっています。



●問10 新型コロナウイルス感染症の流行、物価高騰等社会情勢の変化の影響を受け、貴事業所は利用者の実費負担分の価格変更を行いましたか。または価格変更を予定していますか。(○は1つ)

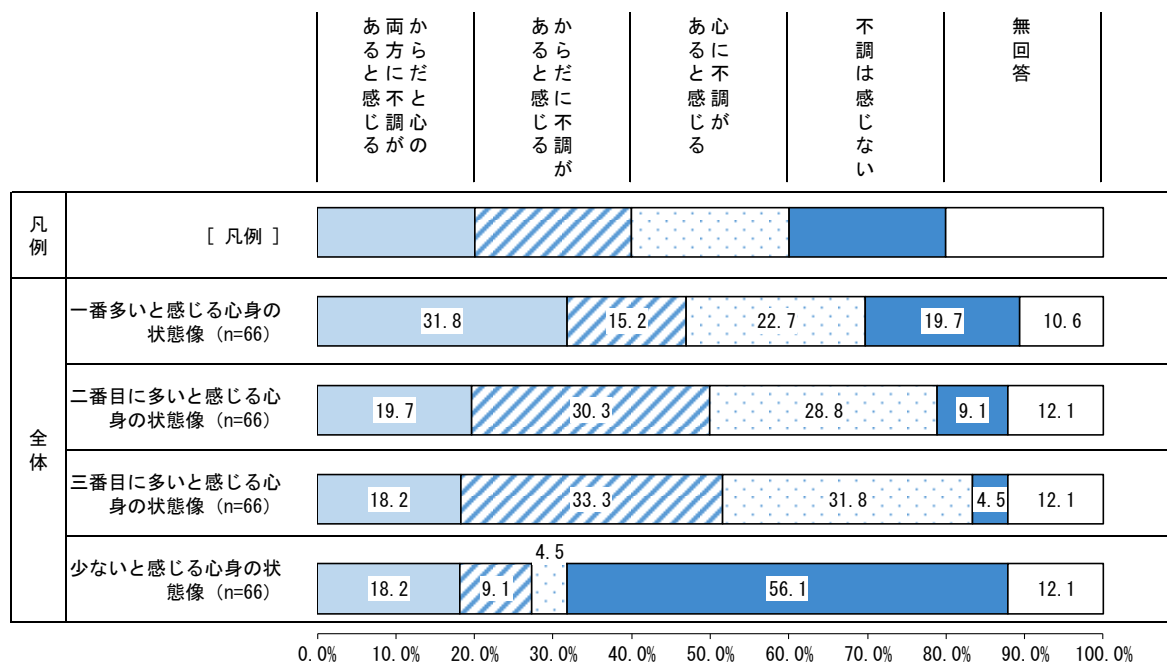
○ 実費負担分の価格変更の有無について、「価格変更なし」が65.2%で最も多く、次いで「価格変更を予定している」が12.1%、「価格を変更した」が10.6%となっています。



- 問11 新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、貴事業所の利用者の心身の状態像を多いと感じる順に①～④を記入してください。

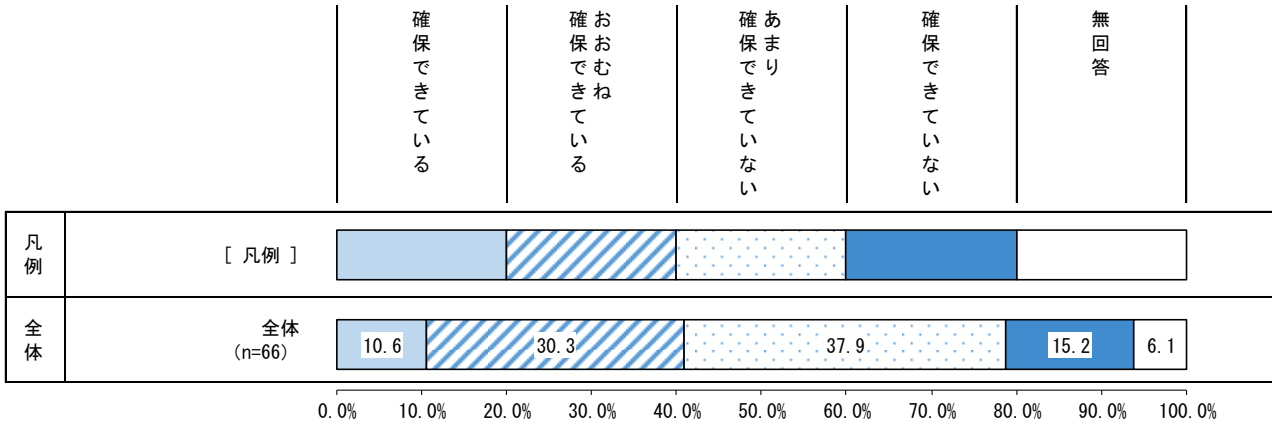
**【全体】**  
 ○ 一番多いと感じるのは、「からだと心の両方に不調があると感じる」で31.8%となっています。少ないと感じる心身の状態像で「不調は感じない」が56.1%と多くなっており、多くの利用者で何らかの不調があると考えられることがわかります。

**【利用者の心身の状態像】**



●問12 この1年間、貴事業所における介護人材の確保について、おおむねどのような状況ですか。(○は1つ)

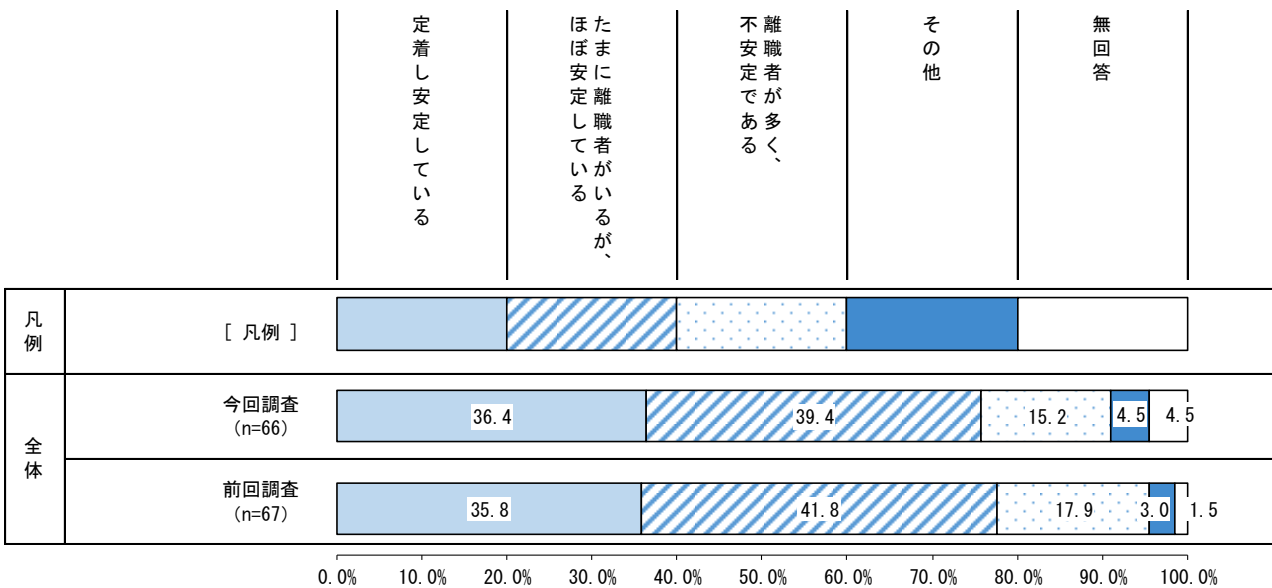
○ 介護人材の確保状況について、「あまり確保できていない」が37.9%で最も多く、次いで「おおむね確保できている」が30.3%、「確保できている」が15.2%となっています。



●問13 この1年間、貴事業所における職員の定着について、おおむねどのような状況ですか。(○は1つ)

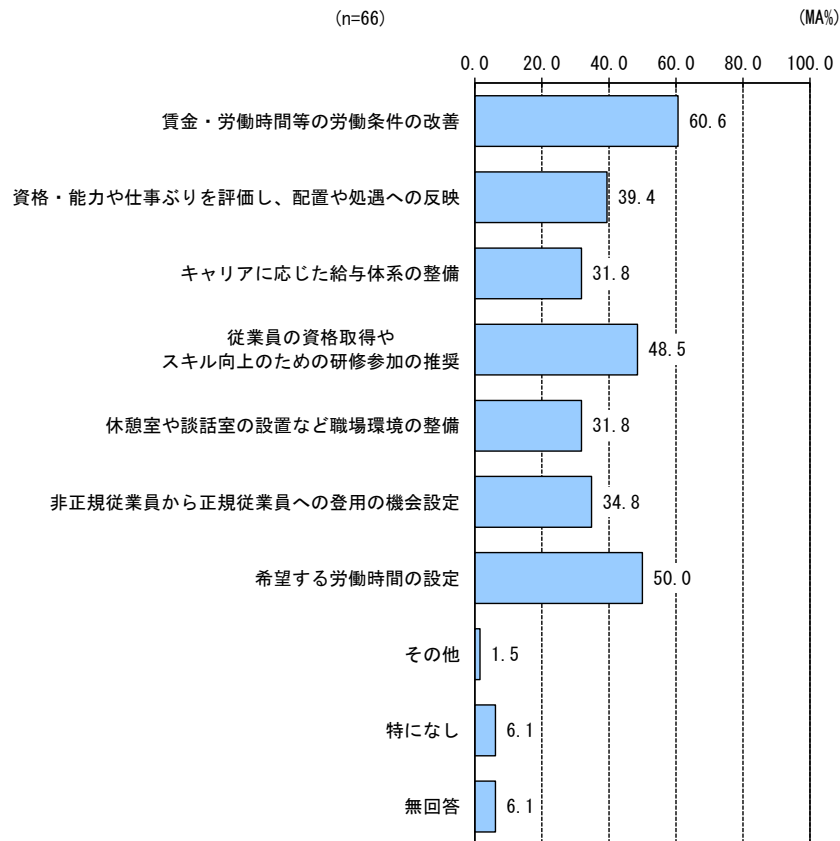
【全体】

○ この1年間、貴事業所における職員の定着について、おおむねどのような状況ですか。について、「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が39.4%で最も多く、次いで「定着し安定している」が36.4%、「離職者が多く、不安定である」が15.2%となっています。  
○ 前回調査と比べて、「離職者が多く、不安定である」がやや少なくなっています。



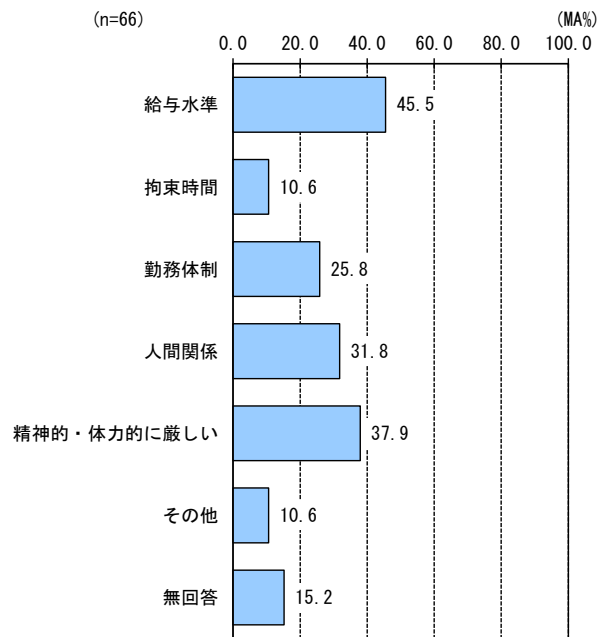
●問14 人材を定着させるために取り組んでいることは何ですか。(いくつでも○)

○ 人材を定着させるために取り組んでいることについて、「賃金・労働時間等の労働条件の改善」が60.6%で最も多く、次いで「希望する労働時間の設定」が50.0%、「従業員の資格取得やスキル向上のための研修参加の推奨」が48.5%となっています。



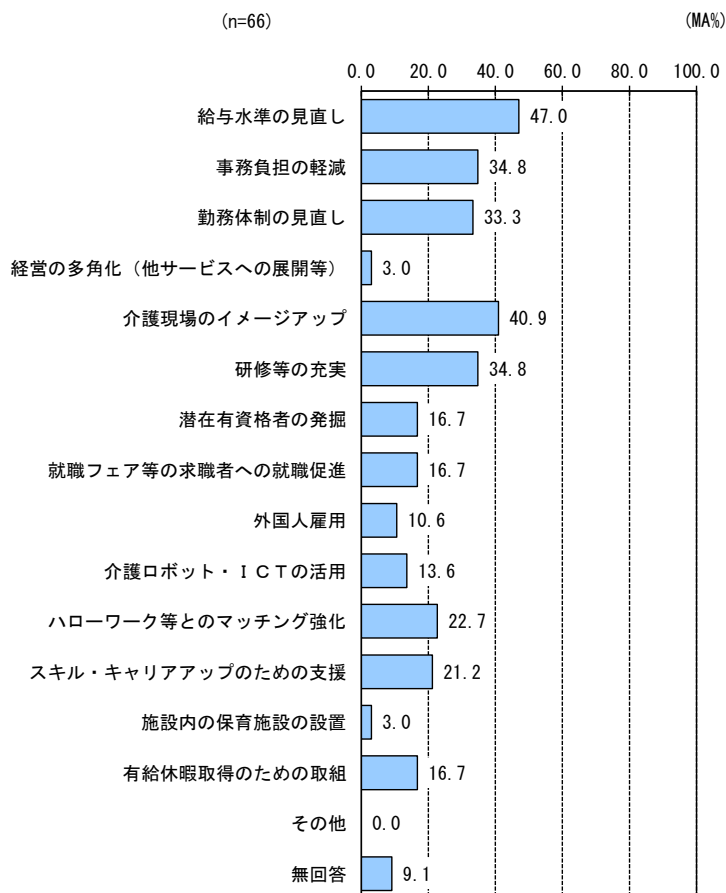
●問14.1 人材が確保できない、職員が定着しない課題は何ですか。(いくつでも○)

○ 人材が確保できない、職員が定着しない課題について、「給与水準」が45.5%で最も多く、次いで「精神的・体力的に厳しい」が37.9%、「人間関係」が31.8%となっています。



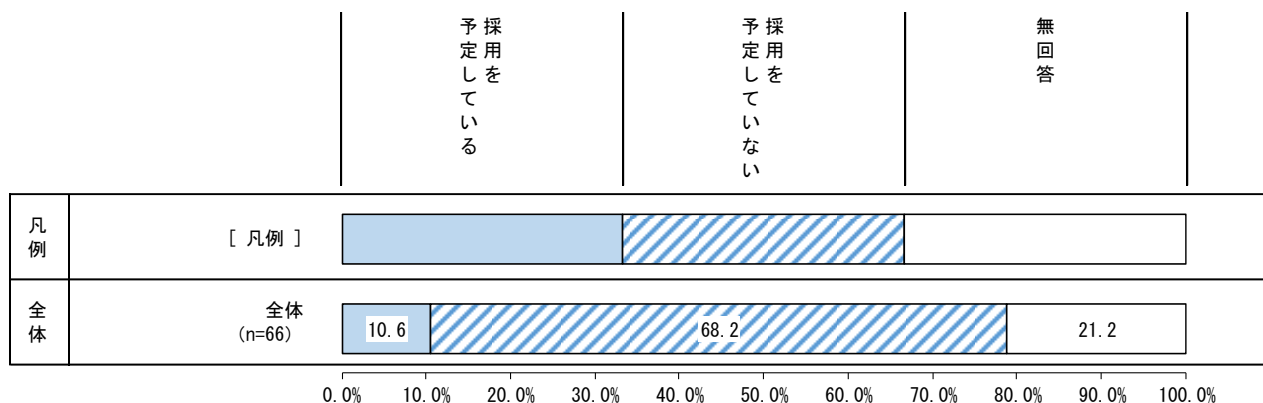
●問14.2 人材確保・定着について、今後取り組みたいことは何ですか。(いくつでも○)

○ 人材確保・定着について、今後取り組みたいことについて、「給与水準の見直し」が47.0%で最も多く、次いで「介護現場のイメージアップ」が40.9%、「事務負担の軽減」「研修等の充実」が34.8%となっています。



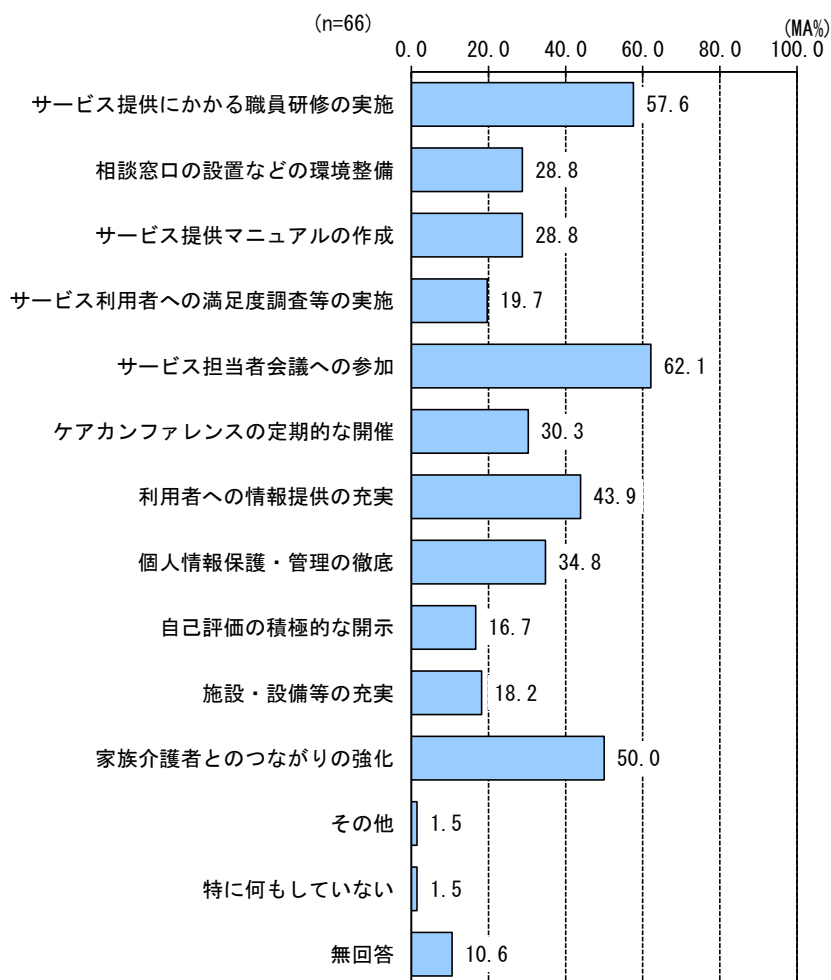
●問19 外国人介護人材の採用を予定していますか。(○は1つ)

○ 外国人介護人材の採用予定について、「採用を予定している」が 10.6%、「採用を予定していない」が 68.2%となっています。



●問23 貴事業所において、サービスの質の向上に向けて特に取り組んでいることはありますか。(いくつでも○)

○ サービスの質の向上に向けて特に取り組んでいることについて、「サービス担当者会議への参加」が 62.1%で最も多く、次いで「サービス提供にかかる職員研修の実施」が 57.6%、「家族介護者とのつながりの強化」が 50.0%となっています。

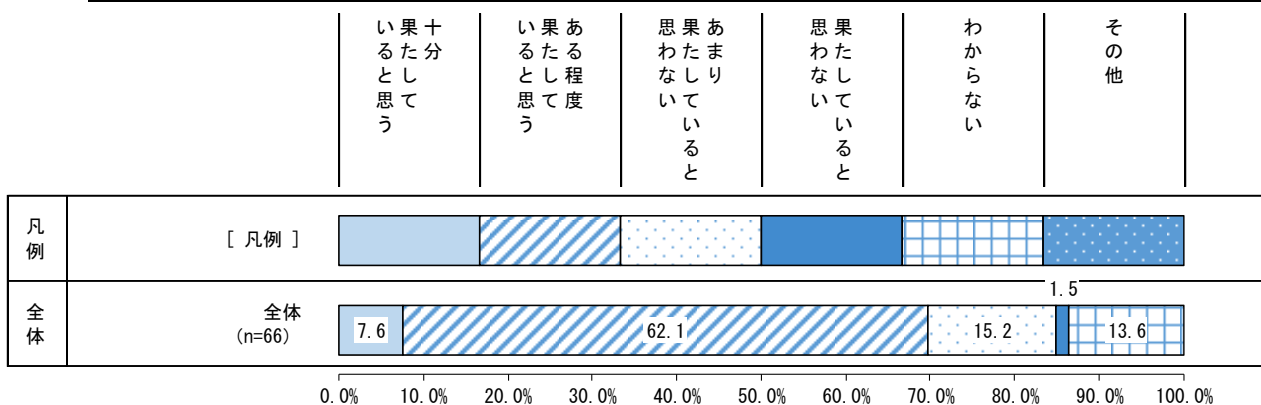


#### 4. 地域包括支援センターについて

地域包括支援センターに機能強化してほしいことでは、「困難事例への支援の充実」「情報提供の充実」の回答が多い。

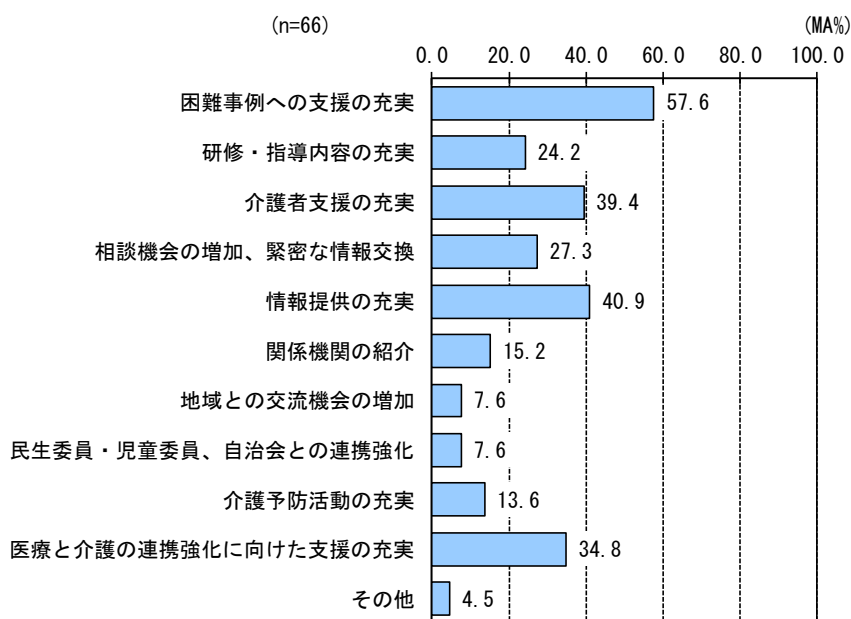
●問24 現在、地域包括支援センターが、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられるよう取組を行っていますが、その役割を果たしていると思いますか。(○は1つ)

○ 地域包括支援センターが役割を果たしていると思うかについて、「ある程度果たしていると思う」が 62.1%で最も多く、次いで「あまり果たしていると思わない」が 15.2%、「わからない」が 13.6%となっています。



●問25 地域包括支援センターに機能強化してほしいと思うことは何ですか。(いくつでも○)

○ 地域包括支援センターに機能強化してほしいと思うことについて、「困難事例への支援の充実」が 57.6%で最も多く、次いで「情報提供の充実」が 40.9%、「介護者支援の充実」が 39.4%となっています。

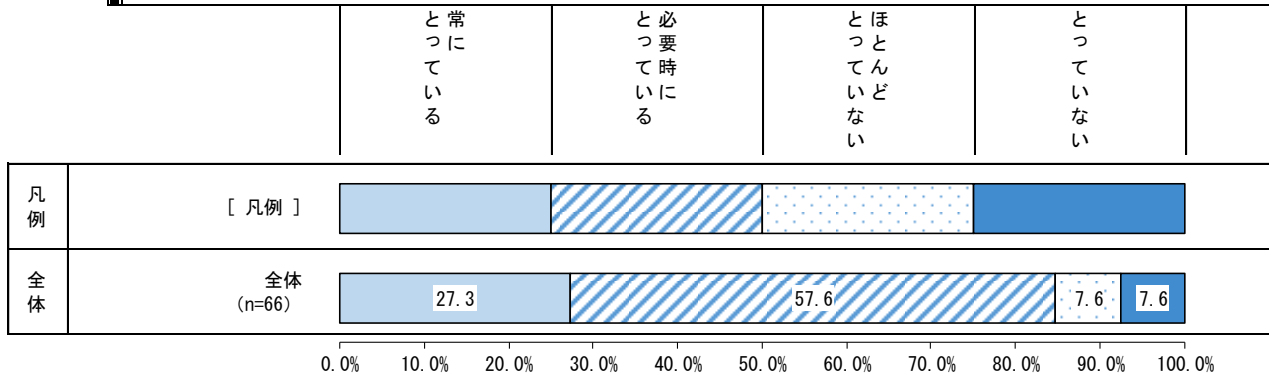


## 5. 関係機関との連携状況について

連携状況について、“とっていない（「ほとんどとっていない」「とっていない」の合計）”は、歯科医師との連携で 48.5%、居宅介護支援事業所以外の介護保険サービス提供事業所で 18.2%、医師との連携で 15.2%となっている。

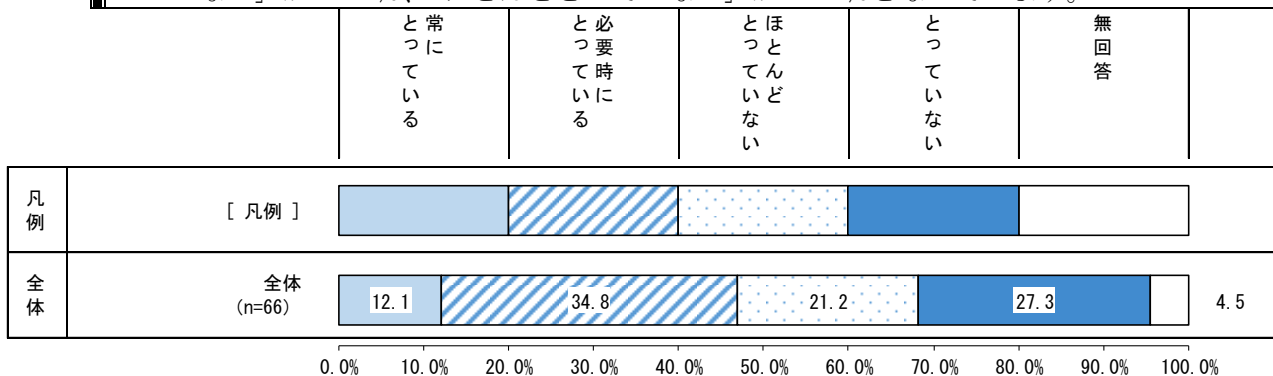
### ●問26 医師（歯科医師除く）と連携をとっていますか。（○は1つ）

○ 医師（歯科医師除く）との連携について、「必要時にとっている」が 57.6%で最も多く、次いで「常にとっている」が 27.3%、「ほとんどとっていない」「とっていない」が 7.6%となっています。



### ●問27 歯科医師と連携をとっていますか。（○は1つ）

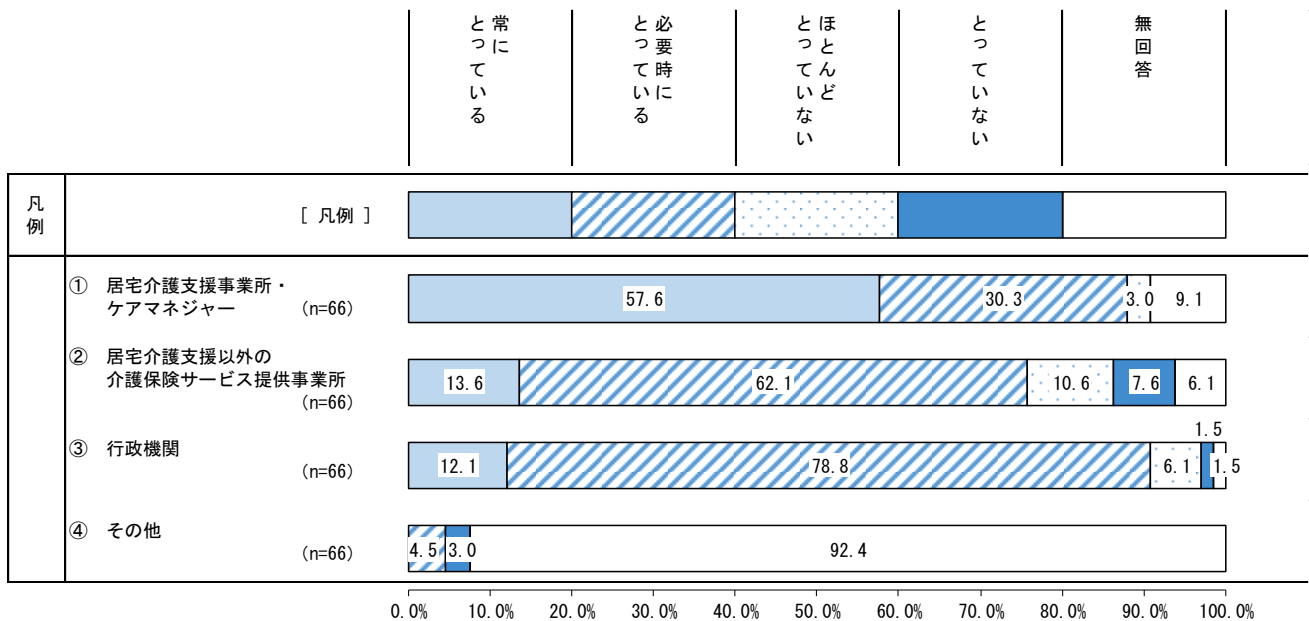
○ 歯科医師との連携について、「必要時にとっている」が 34.8%で最も多く、次いで「とっていない」が 27.3%、「ほとんどとっていない」が 21.2%となっています。





●問28 以下の関係機関等と連携をとっていますか。(それぞれ○は1つ)

- ①居宅介護支援事業所・ケアマネジャーでは「常にとっている」が 57.6%と他の区分に比べて多くなっています。  
 ○ ②居宅介護支援以外の介護保険サービス提供事業所では「ほとんどとっていない」が 10.6%、「とっていない」が 7.6%と他の区分に比べて多くなっています。



6. 高齢者施策全般について

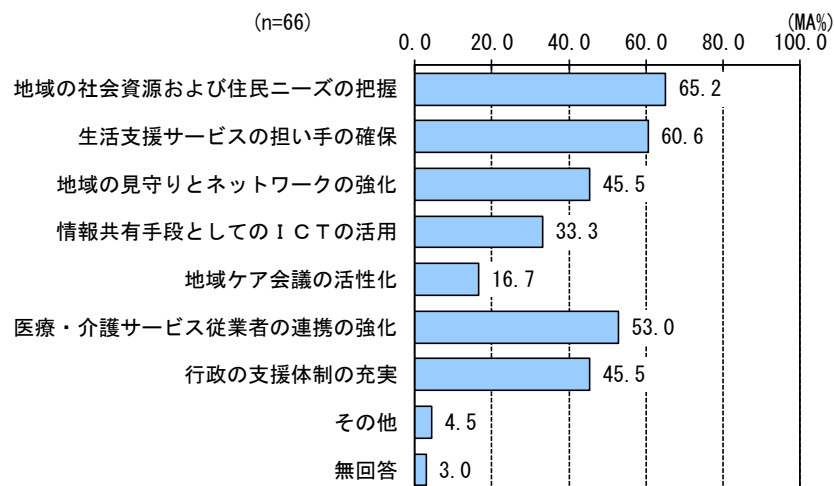
地域包括ケアシステム構築のために必要なものでは、地域の社会資源および住民ニーズの把握、生活支援サービスの担い手確保の回答が多い。また、医療・介護の連携強化の回答も多くなっている。

サービス提供の上で必要な行政の支援等では、介護保険制度や市の事業に関する情報提供、処遇困難者への対応またはその支援に関する回答が多い。

●問29 地域包括ケアシステムを構築するために必要なものは何と考えますか。

(いくつでも○)

- 地域包括ケアシステムを構築するために必要と思うものについて、「地域の社会資源および住民ニーズの把握」が 65.2%で最も多く、次いで「生活支援サービスの担い手の確保」が 60.6%、「医療・介護サービス従業者の連携の強化」が 53.0%となっています。



●問30 サービスの提供を行う上で、行政の支援等が必要だと思われることは何ですか。

(○は3つまで)

○ サービスの提供を行う上で、行政の支援等が必要なことについて、「介護保険制度に関する最新情報の提供」が 54.5%で最も多く、次いで「処遇困難者への対応またはその支援」が 45.5%、「市の高齢者福祉事業に関する情報の提供」が 42.4%となっています。

